

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道

1987

11



聖徒の道

1987年11月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本書は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンカ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊—インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊—アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー、ハワード・W・ハンター、ボイド・K・ハッカー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オクス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン

顧問：ヒュー・W・ビノック、ジョン・H・グローバーク、ジェームズ・M・バラモア、デレク・A・カスバート

編集長：ヒュー・W・ビノック

教会機関誌ディレクター：ロナルド・L・ナイトン

編集主幹：ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集主幹補佐：ジャン・U・ビンボロー

子供の頁編集：ダイヤモンド・ブリンクマン

レイアウト/デザイン：N・ケイ・スティーンソン、シャリ・クック

制作：レジナルド・J・クリステンセン

マーケティング・マネージャー：トーマス・L・ピーターソン

聖徒の道 1987年11月号第31巻第11号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定価 年間予約 海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

普通号150円、大会号(1,7月号)350円

International Magazines PBMA8711JA

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright ©1987 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号 東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先……〒106東京都港区南麻布5-10-30/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部経理課 ☎03-440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎0427-96-2820

●—もくじ

世の人々への宣言	ゴードン・B・ヒンクレー	2
英国におけるみ業の進展		8
イギリスの教会員の改宗談	アン・ベリー	13
家庭訪問メッセージ「祝福と責任」		17
ニール・A・マックスウェル長老		
——「最もすぐれた道」を追い求める人	ヘンリー・B・アイリング	18
結婚について思うこと	セオドア・M・パートン	24
カルロス・ディ・アンジェロ		
——「努力すれば必ず祝福があると確信しています」	ヘクター・H・ペルゾッチー	28
独身者に関心を寄せる既婚者への助言	キャサリン・リュウベック	32
質疑応答(イエスとルシフェルは霊の兄弟)	ジェス・クリステンセン	36
名言抄		
幸福を得るための知恵	ミルドレッド・パートル	39
——若人のために——		
みずから行く場所へ人を導く	ウェイン・B・リン	42
「奇しきみわざ」	クリス・クロウ	44
「きょう、選びなさい」	バーバラ・ジェイコブ	47
主のみもとにとどまる力	ジェニーン・ウルジー・バースガード	48

チャーチニュース/各地のたより

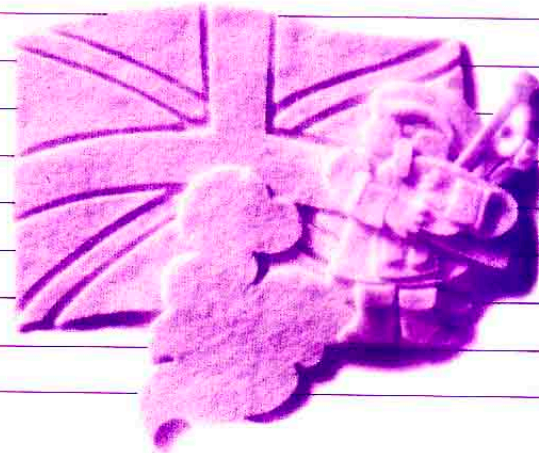
子供のページ(別冊付録)

小さなお友だちへ

チャールズ・A・ディディエ長老

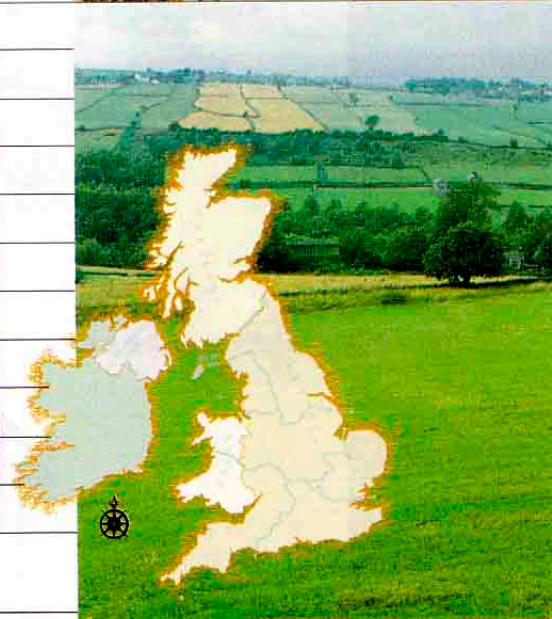
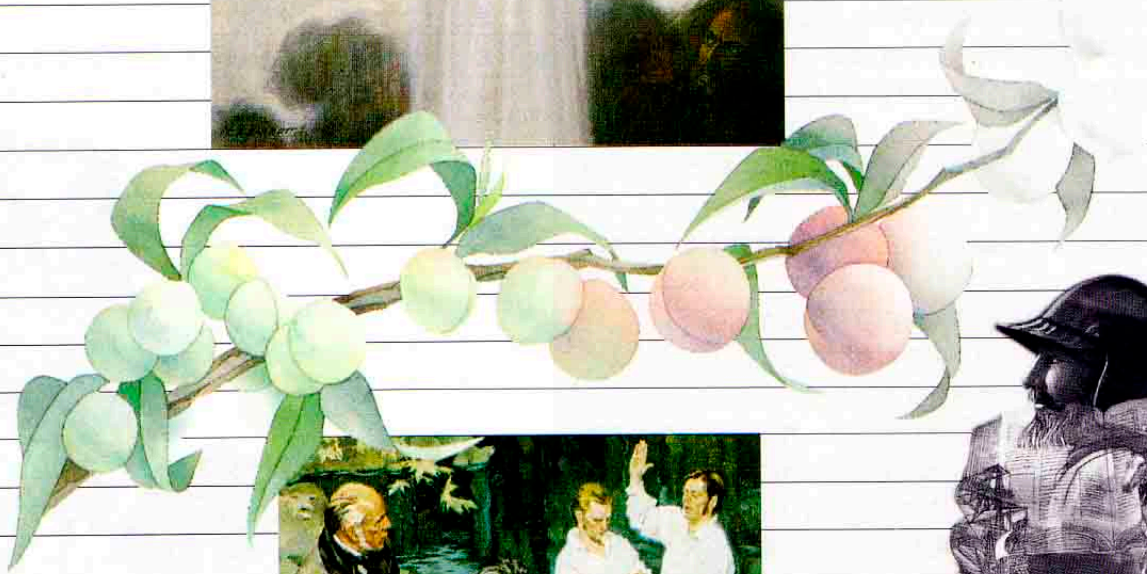
新しいサッカーボール

エステル





表紙:1987年は英国諸島への伝道が開始されて150年目にあたる。英国の何千人という改宗者がアメリカに新天地を開き、教会を強めるために大西洋を渡った。ケン・バグスターのこの絵は、1851年にイングランドのリバプールから出航する聖徒たちを描いたものである。



世の人々への宣言

第一副管長
ゴードン・B・ヒンクレー

本年初旬、英国諸島で5回の大会が開かれました。大管長会、十二使徒評議員会、七十人第一定員会のメンバーが、英国の聖徒たちと共に集ったのです。この大会は、英国諸島への伝道開始150年を記念する様々な催しの最後に飾るものでした。

教会は英国伝道部を開設した今から150年前に、世の人々に宣言をしました。

1. それは偉大な福千年のビジョンを宣言するものでした。
2. それは驚嘆すべき信仰の宣言でした。
3. それは一人一人の勇気の宣言でした。
4. それは永遠の真理の宣言でした。

時の絶頂の時代、復活された主は、昇天の前に愛する弟子たちにこう言われました。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコ16:15)

財産も地位もなかった当時のほんの一握りの人々にとって、この遠大な務めを果たすのは大変なチャレンジでした。しかし、彼らはすべてを捧げてその召しを全うしたのでした。

この末日にあって主はこう言われました。「聴け、汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ。曰く、誠にわれ告ぐ、汝ら民よ、遥かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。

誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがる者なし。目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなく、心として刺し貫かれざるはなし。……

而して、この末の世にわが選びたる弟子たちの口より、すべての人々に警めの声は及ばん。

この末の世の弟子たちは進み行けど、一人もこれを止むる者なからん。そは主なるわれ、彼らに命じたればなり。」(教義と聖約1:1-2, 4-5)

この福千年に向けての使命は、1830年代にカートランドという農村とその周辺に住んでいた一握りの貧しい末日聖

徒に託されました。彼らは多大な犠牲を払って、神殿を建てました。するとサタン力がカートランドに襲いかかり、貪慾と後先を考えない投機にその姿を変えて、人々の心を神から俗世へとそれさせていったのです。人々は予言者



1837年6月、ヒーバー・C・キンボールは、ジョセフ・スミスからイングランドでの伝道を開始する任に召された。



ヨセフ・スミスに背を向けました。教会は揺らぎ、忠実な者たちと、その目が俗世のものに注がれている人たちがふるい分けられたのです。問題をさらに複雑にしたのは、聖徒たちが1,000キロ以上も離れたオハイオ州とミズーリ州に分散し、実質的にコミュニケーションが皆無の状態に置かれたことです。

予言者ジョセフ・スミスが十二使徒定員会会員のヒーバー・C・キンボール長老のもとを訪れた1837年6月4日の日曜日は、そうした苦悩の時代のただ中でした。「そのとき（ヒーバー・C・キンボールは）カートランド神殿のメルケゼデク神権側の説教壇の前、聖餐桌の上の方に座を占めていた。ジョセフはヒーバーの耳もとでこうささやいた。

『ヒーバー兄弟、主のみたまが私に臨みました。「我が僕ヒーバーを英国に遣わし、福音を宣べ伝えさせよ。英国への救いの扉を開けさせよ」と。』」（「教会歴史」2：490）

想像してみてください。財産のほとんどない者が、伝道から帰ってきて事実上無一文の人に向かって、海を渡ってそこで主の業を開始せよと言うのです。信仰の薄い人々は、アメリカでもまだすることがたくさんあったはずではないかと言います。当時の聖徒たちは開拓の地にあり、教会員総数は1,500人に達していなかっただろうと思われま

しかし、当時の指導者たちにはビジョンがありました。世の終わりが来る前に福音がすべての国民に宣べ伝えられるという福千年についてのビジョンでした。伝道の業はカナダでもすでに行なわれていました。しかし今や、彼らは海を越えて英国諸島に福音を広めようとしていたのです。

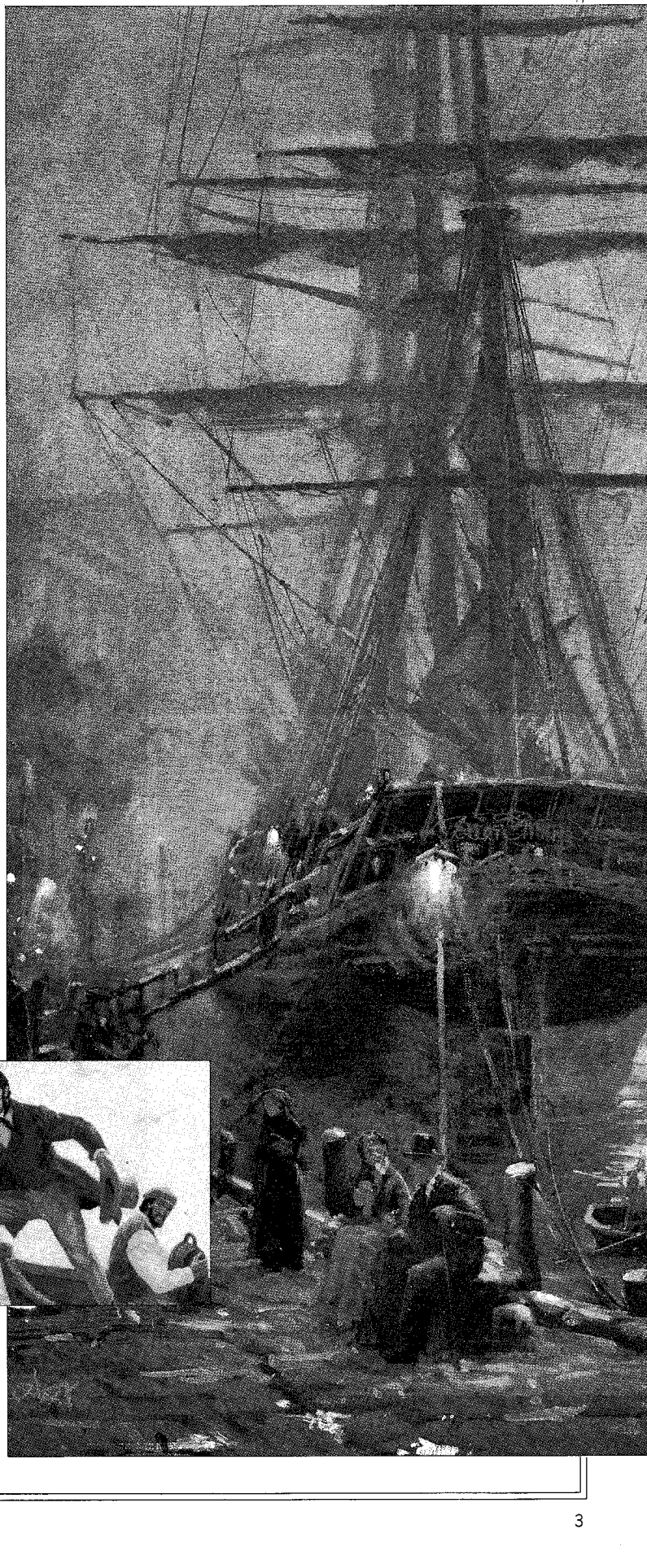
海を渡り英国に行くようにとのヒーバー・C・キンボールとその一行への召しは、予言者ジョセフ・スミスによるこの回復された業の偉大な行く末を宣言するものでした。以来このビジョンが光を失ったことはありません。その後変わることなく、サタンのいかなる力にも屈することなく、このビジョンは貫かれ、この業は発展し、伝道部は192を数え、今日75カ国、18の領地、植民地、属国で福音が教えられているのです。

今まで多くのことが行なわれてきましたが、終わりはまだ来ていません。世界中にはまだ手つかずのところが多くあります。しかし、そうした国々の門戸が開かれるとき、偉大な福千年の予言の成就に向けて真

イングランドでの伝道に熱い思いをたぎらせていたヒーバー・C・キンボールは、船が着くのを待ち切れず、さん橋に飛び移った。



回復された福音を受け入れた改宗者たちは、イングランドのリバプールから出航してアメリカへ行った。(ケン・バグスター画)



TRUTH WILL PREVAIL



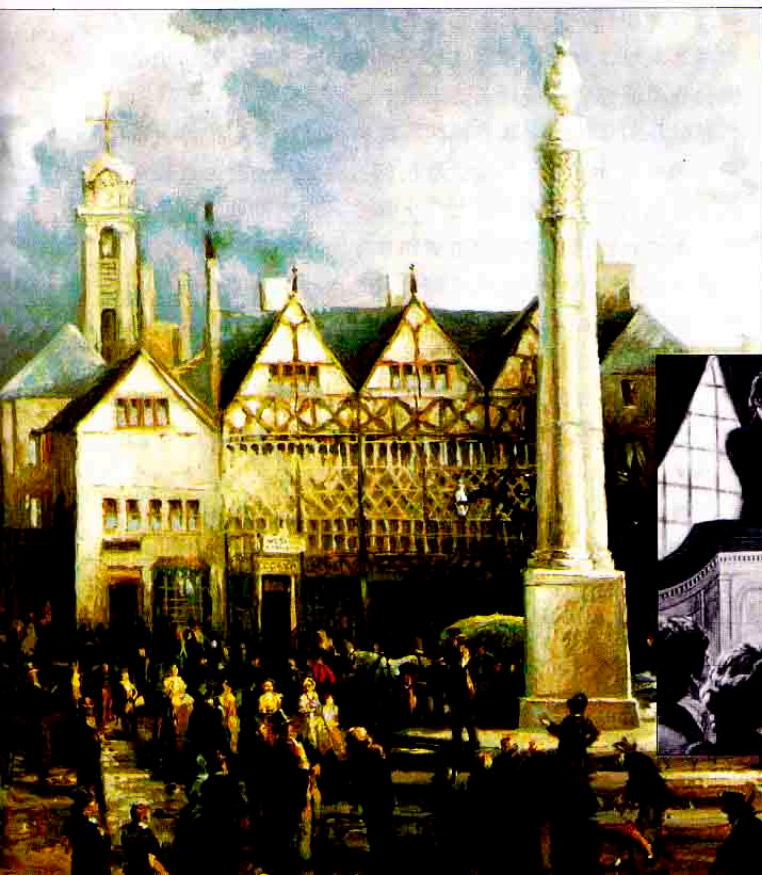
プレストンに着いたヒーバー・C・キンボールと同僚は、「真理は勝つ」と書かれた選挙用の垂れ幕を見て、伝道のモットーとした。

理の使者が出て行くことでしょう。その予言は、あの7人の兄弟たちが英国諸島へと召されたオハイオとミズーリの苦悩の時代に啓示されたのでした。

召しに応じた彼らの態度は、信仰の偉大な宣言でした。ヒーバー・C・キンボールはこう言っています。「そのような使命はとても耐えられるものではないと思われた。私は、自分の肩に置かれた重荷に今にも沈みそうであった。しかし、こうした数々の懸念も、与えられた務めから私をそれさせることはなかったのである。私は天の御父のみこころを理解するや、いかなる障害があろうと行こうと決心した。主はその全能の力で私を支え、必要な資格を授けてくださることを信じるからである。また、家族はいとおしく、しかも彼らを極貧の状態で残さなければならないが、私は真理の大義、すなわちキリストの福音は他のいかなる問題をも凌駕するものだと感じるのである。」(オルソン・F・ホイットニー「ヒーバー・C・キンボールの生涯」p. 104)



プレストン



オルソン・ハイド、ウイラード・リチャーズ、ジョセフ・フィールディングも同じ信仰をもって召しに応じ、ヒーバーと共にニューヨークでジョン・グッドソン、アイザック・ラッセル、ジョン・スナイダーと合流しました。

6月13日火曜日は、ヒーバー・C・キンボールら4人のカートランドからの出発の日でした。その朝キンボール家の様子を目撃した人は、家族のもとを去るキンボール長老が捧げた祈りを次のように描写しています。「ヒーバーはいにしへの族長のように、持てる職を通して子供たち一人一人の頭に手を置き、父親としての祝福を授けた。そして自分が外国で福音を宣べ伝える間、皆に神のみ守りがあるように願った。その祝福の間、こらえきれずもれる家族のおえつのために、祝福の声も途切れがちであった。……大粒の涙が頬をつたい、彼は感極まってしばしば絶句した。」(ホイットニー「ヒーバー・C・キンボールの生涯」pp.108-109)

彼らは皆、信仰と勇気を持っていました。しかしお金はありませんでした。ある兄弟はコートを持たないヒーバーに自分のコートを渡しました。ある姉妹は5ドルを渡し、ヒーバーとオルソン・ハイドはその金でバッファローまでの切符を買いました。

彼らはまた途中マサチューセッツに寄り、ウイラード・リチャーズの兄弟から40ドルの寄付を受けました。

こうしてヒーバーたちはニューヨークで仲間と合流し、6月25日の日曜日に断食して祈り、聖餐を執行し、主に導きを請い願いました。方法はわかりませんが、彼らはリバプールまでの旅費である、ひとり18ドルを手に入れてます。そして7月1日の午前10時、ヒーバー一行は船上の人となったのでした。

何とすばらしい信仰の宣言、勇気の表明でしょうか。この勇気には熱意が秘められていました。それから18日と18時間の船旅の後、彼らの船はリバプールのマーシー川の停泊所に到着しました。リバプールでは50キロほど北方にあるプレストンに行くようにみたまのさきやきを受けます。その町は、国会議員の選挙でわきかえっていました。

伝道のための集会が開かれたプレストンの広場



プレストンのパウホールチャペルで説教をした結果、多くの人々が改宗した。



ヒーバー・C・キンボールはプレストンで働いたあと、近くのシャトバーンで話をしてくれるように頼まれた。大きな納屋が集会所として使われ、そこに集まった多くの人々が福音のメッセージを受け入れた。

シャトバーン

彼らがプレストンのフィッシャーゲート・ストリートに近づく、「真理は勝つ」と書かれた垂れ幕が彼らの行く手にひるがえっていました。

ヒーバーたちはこの言葉を伝道のモットーにしました。

こうして彼らの働きは、ただちに永遠の真理を宣言するものとなりました。最初の説教はバウホールチャペルで行なわれました。その牧師はジョセフ・フィールディングの兄弟でした。この説教とそれから何日かの説教の結果、次の日曜日にはリドル川で11人がバプテスマを受けたのです。

1837年の7月のその日以来、彼らの真理のメッセージはその後の何千人もの宣教師によって繰り返し宣べ伝えられ、英国諸島で福音を受け入れた何十万もの人々の心に深く刻み込まれたのです。

私もその宣教師のひとりです。最初の任地としてプレストンに召されたのは私にとって幸運でした。私はプレストンの町で伝道しただけでなく、最初の宣教師が福音を教えた周辺の町でも働きました。私は彼らほどの働きはできませんでした。その時代は宣教師への偏見はほとんどありませんでしたが、私のときはみんなが私たちに偏見を持って接しているように感じたものです。

着任したてのころは、体調が良くありませんでした。病気と住民からの反感のため、最初の数週間は気持ちが沈んでいました。そこで私はアメリカの父に手紙を書き、時間と父が送ってくれているお金を無駄にしているように思うと伝えました。父はステーキ部長で、賢明で、靈感にあふれた人でした。随分短い返事をくれました。「愛するゴードン、君の手紙を受け取りました。アドバイスはひとつだけ。自分を忘れて伝道しなさい。」その手紙を受け取った日の早

朝、同僚たちとの聖典勉強会で同僚と私は主の次の言葉を読んでいたのです。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。」(マルコ8:35)

主のこの言葉は、父のアドバイスも伴って、私の心に深く刻み込まれました。私は父の手紙を手に私たちの住居であったワダムロード15番地の家の寝室に入り、ひざまずいて主に願い求めました。そして、主の業のために自己を忘れ自己を捧げることを誓約したのです。

1933年の7月のその日は、私にとって決意の日でした。新たな光が私の人生に射し込み、私の心には新しい喜びがわきあがりました。私はこの実り多い、素晴らしい伝道の機会を生涯感謝し続けることでしょう。

私は1837年の出来事を感謝しています。そして偉大な福千年のビジョン、また偉大な信仰と勇気、永遠の真理を宣言するために予言者ジョセフ・スミスから初期の宣教師たちに下された召しに感謝しています。

私は彼らの努力によって掘り起こされた地で働いている間、感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして、神のこのみ業と、愛する御子であり世の贖い主であるお方への燃えるような愛が私の心にわきあがってきたのです。私たちは皆主の教会の会員として、主のみ名により働いているのです。

この時満ちたる神権時代に、神の愛子の栄光あふれる福音が回復されたことを神に感謝します。

予言者ジョセフ・スミスが召されたことを神に感謝します。ジョセフを通して回復が行なわれ、そのわずか7年後にその福音を英国諸島に伝えよとの啓示が下され、受け入れられたからです。

ヒーバー・C・キンボールと同僚のジョセフ・フイールディングは、各地で福音を聞きたいと願っていた数多くの人々から温かく迎えられた。あるときなどは、あまりにも多くの人々が来て握手もできないほどだった。



ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに、以下の点について話し合うとよいでしょう

1. 主は弟子たちに、福音を全世界に宣べ伝えるように求められた。古代の弟子たちはそのために命を捧げた。回復された教会の初期の聖徒たちもそうであった。
2. 福音が英国に伝えられたのは、今から150年前、教会が設立されてからわずか7年後であった。

話し合いを進めるために

1. 福音を全世界に広めるために、私たちには何ができるだろうか。そのためにどのような犠牲が必要だろうか。
2. ときどき、主が求められることには無理だと思われることがある。そういう気持ちを克服して主の命を果たすに足るだけの信仰を得るにはどうしたらよいだろうか。
3. 若きゴードン・B・ヒンクレーが英国での伝道の初めての週に気持ちをくじかれたとき、父親は「自分を捨てて伝道しなさい」と忠告した。この忠告は、私たちがなかなか進歩できずに気落ちしているときにどう役立つだろうか。

また、財布も旅の袋もなく海を渡り、その後1世紀半に及ぶとどまることのないみ業の先駆けとなった人々の信仰を神に感謝します。福音はかの地からヨーロッパへ、そして世界各地へと広まっていったのです。

こうして1837年以降、弱体化した教会に英国の血が流入し、教会は必要な力を得ることができました。英国諸島からは何千人もの改宗者が生まれ、手に職を持つ人々はノーヴー建設の担い手となり、後に西部の開拓地でも腕をふるいました。私は壮大なソルトレーク神殿やタバナクル、そのほか教会の建物を見るとき、その細工の見事に驚嘆せずにはられません。西部への旅の途中で何百人もの聖徒が命を落としました。しかし志半ばにして天に召された彼らも、また生きて定住の地を見いだした人も、共に、1837年に福音の網を投げ入れたあの一握りの人々と相通じる信仰を私たちに残してくれたのです。

教会とその会員には、偉大な福千年に先がけて福音を全世界に広める使命があります。私たちは、この使命の遂行のために働くという特権と機会を忘れないようにしようではありませんか。それには、信仰と勇気と真理の宣言を世の人々にできるような生活をするのが肝要です。この偉大な主の業のために皆さんが喜んで自己を捨てることできるようにと祈ってやみません。□

英国におけるみ業の進展

英国伝道史初期のハイライト

1835年に十二使徒定員会が組織されて以来、使徒たちは、ほかの国々の人々に福音を伝えるという自分たちの責任を片時も忘れることはありませんでした。しかし、オハイオ州カートランドの聖徒たちに対して加えられていた迫害を考えると、その使命のために十二使徒を遣わすのはとても無理なこととは思えませんでした。

しかし、主は1837年6月に、予言者を通して、海外にも福音を宣べ伝え、み業を広げていくことは、「教会員の救い」のためにぜひ必要なことであるとの啓示を下されました。かくして、十二使徒のひとりヒーバー・C・キンボールが英国への伝道を指導する任に召されたのです。

6月13日に、彼はオルソン・ハイド、ジョセフ・フィールディング（イングランド出身）、ウイラード・リチャーズと共にカートランドを出発しました。彼らはニューヨークに到着すると、アイザック・ラッセル、ジョン・グッドソン、ジョン・スナイダーというカナダからの3人の聖徒と合流しました。そしてこの7人の宣教師は1837年7月20日にイングランドのリバプールに到着したのです。

彼らはリバプールから北へ向かい、ジョセフ・フィールディングの親戚が住む

プレストンの町へ行きました。祈りを通して、そこから伝道を始めるべきだという確認を受けていたのです。彼らが到着したのは、ちょうど議会の選挙運動の最中で、各派のスローガンを書いた旗や垂れ幕があちこちに見られました。その中のひとつに「真理は勝つ」と書かれてあるのを見た宣教師たちは、これを天からの吉兆と考えました。

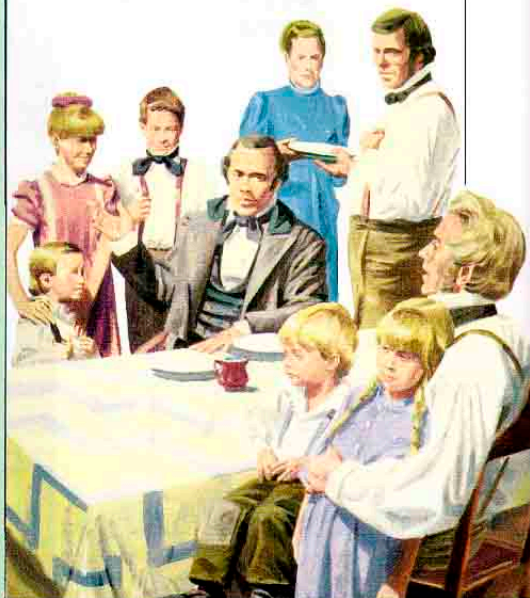
真理が勝利を取めたことは、最初にイギリスにきた宣教師とそれに続く人々が始めた偉大な業を見れば歴然としています。イギリスで伝道をした宣教師の中には、ジョン・テイラー、オルソン・ブラット、ブリガム・ヤング、そしてさらに時代を下ると、エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、マービン・J・アシュトン、デビッド・B・ヘイト、M・ラッセル・バラードなどの顔ぶれがあります。

1840年の4月にプレストンで開かれた歴史的な集会において、ウイラード・リチャーズが十二使徒に聖任され、英国で伝道する使徒の数がこれで8人になりました。また先任使徒のブリガム・ヤングが定員会会長としての公式な支持と任命を受けたのも、この大会のときでした。



ジョン テイラー

リバプール



ジョン・テイラー長老は親だけでなく、子供にもバプテスマを受けさせるべきであることを指摘された。

ジョン・テイラーの伝道——1840年

ジョン・テイラーはウイルフォード・ウッドラフとジョン・ターリーを伴い、自分が生まれた国、英国へ遣わされました。彼は英国に到着するとすぐにその足で、妻の兄弟であるジョージ・キャンノンの家へ向かいました。

あいにくジョージは不在でしたが、彼の妻と5人の子供が遠来の客を温かく迎えました。テイラー長老が再会を約して出て行くと、アン・キャンノンが長男に言いました。「あの人は神様に仕えている人よ。この家に救いを与えるために来てくれたのよ。」

確かにテイラー長老はキャンノン家の人々に救いをもたらしました。テイラー長老の到着から1カ月後に、ジョージとアンがバプテスマを受けたのです。ジョージはモルモン経を2度読んだあとでこう言いました。「邪悪な人間にこのような本を書くことは絶対にできない。また、それが真実であり、神から命じられたのでなければ、だれもこのような本は書か



ウイラード・リチャーズが英国で使徒に聖任された。これで英国で伝道する使徒の数が8人となった。

ない。」

キャンノン家の4人の子供たちは、バプテスマを受けられる年齢になっていましたが、テイラー長老はパーレー・P・ブラット長老に「この子供たちに福音を教えましたか。今バプテスマを受けたいと思っている子もいますよ」と言われるまで、バプテスマを受けたいかどうか聞かなくていたようです。彼らがそのあとでバプテスマを受けたのはもちろんのことです。

一番年上の子供ジョージ・Q・キャンノンは後にアメリカへ移住し、1860年には使徒に聖任されました。そして、4人の大管長に副管長として仕えたのです。

アイルランド

テイラー長老はアイルランドで福音を宣べ伝えた最初の宣教師です。リバプールとその周辺の都市における改宗者は、経済的な圧迫や社会的な圧迫から逃れるために移住してきたアイルランド人がほとんどでした。テイラー長老はそのようなアイルランド人のひとりジェームズ・マガフィーから、ちょうどリバプールに来ていたアイルランドの農夫、トーマス・テートを紹介されました。親しく語り合った後に、テイラー長老はひとつの予言をしました。それは、テート氏がアイルランドにおける最初の改宗者になるという予言でした。しかしこの予言にはそれを語ったテイラー長老自身も驚きました。当時はアイルランドに宣教師を派遣するような計画は何もなかったからです。

しかしテイラー長老は後に、マガフィー兄弟と共に、アイルランドの彼の家へ行くことになりました。どんなときにも宣教師としての責任をおろそかにすることのなかったテイラー長老は、機会を捕らえては集会を開き、回復された教会の物語を人々に話しました。テイラー長老はあるときトーマス・テート氏の家でそのような会を持ちました。会が終わってから、テート氏は隣の町へ行く途中までテイラー長老を送って行くと言い、ふたりは連れだって歩いて行きました。テイラー長老は道々回復された福音の話をしていましたが、やがてある湖の側を通りかかりました。すると、トーマス・テートが使徒行伝8章36節を引用して言いま



アイルランド

した。「ここに水があります。わたしがバプテスマを受けるのに、なんのさしつかえがありますか。」ふたりは湖の中に入り、トーマス・テートはアイルランドで最初のバプテスマを受けました。まさしく、テイラー長老の予言どおりになったのです。

マン島

イングランドとアイルランドのほぼ中間にあるのがマン島です。テイラー長老がこの島へ来たのは1840年9月のことでした。

彼は大きな集会所を借りて、福音のメッセージを宣べ伝え始めました。しかし、地元の聖職者たちが、聖書の引用の仕方が間違っている、聖書を換骨奪胎している、神を冒瀆しているなどと攻撃をしかけてきたのです。テイラー長老は公開の場で彼らと話し合うことに同意しました。そしてすぐに聖職者たちの中傷には何の根拠もないことが明らかになりました。

このような中傷にこたえるために、テイラー長老は3冊のパンフレット用の原稿を書きましたが、それを印刷するためのお金がありませんでした。しかし彼は主に信頼して、助けを祈り求めました。そしてある人から必要な額のお金が入った封筒を受け取ったのです。その封筒にはこう書いてありました。「働き人がその報酬を受けるのは当然である。」

テイラー長老は英国での自分の伝道について、次のように話しています。「お金、衣服、友人、家などに困ったことは

予言されたとおり、トーマス・テートはバプテスマを受け、アイルランドで初めての末日聖徒となった。

……一度もありませんでした。

それによって私は、主が真実のお方であること、また、主は確かにそのみ言葉どおりになさるということを知りました。」

彼は英国での伝道のあとも福音への証を人々に伝え続けました。テイラー長老はジョセフ・スミスがカーセージの牢獄で殉教したときに、自分も5発の銃弾を体に受けましたが、ポケットに入れた懐中時計に銃弾が当たって、命を救われました。彼の証はその暗黒の時代にも確かな錨となったのでした。1877年にテイラー長老は十二使徒定員会会長となり、1880年に大管長の職に召されています。

祈りはこたえられ、ジョン・テイラー長老は伝道用パンフレットを出版するのに必要なお金を得ることができた。

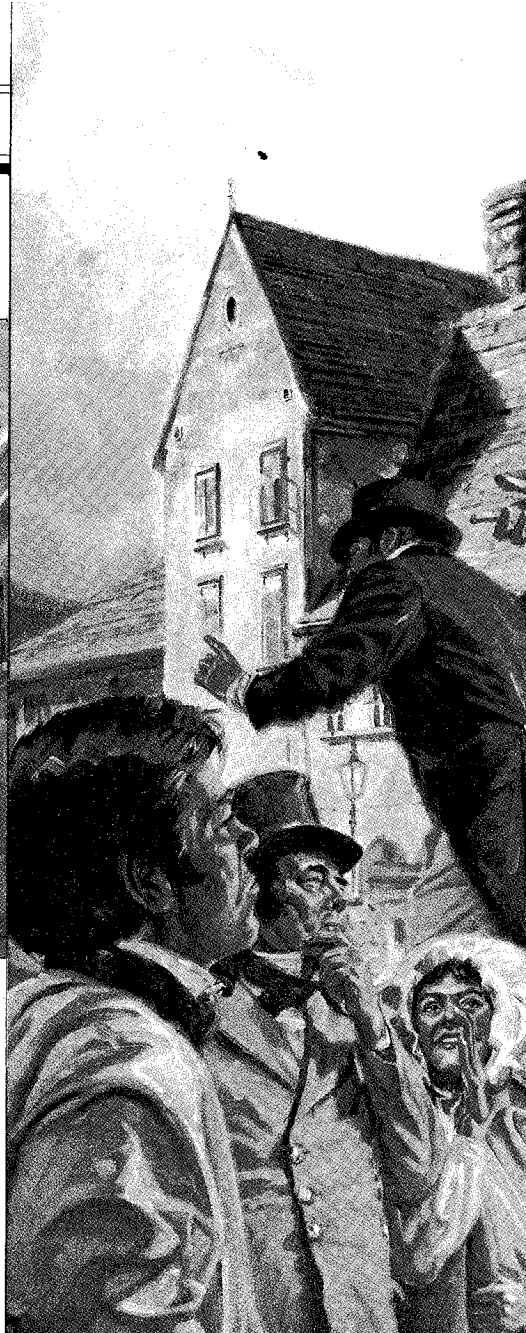
マン島





オルソン プラット

スコットランド



オルソン・プラットの伝道 —— スコットランド, 1840-1841年

1835年に初めて組織された十二使徒定員会の一員であったオルソン・プラット長老がイギリスに着いたのは1840年6月のことでした。彼はスコットランドの地で働くように召され、アレキサンダー・ライト、サミュエル・マリナーと共に福音を宣べ伝えました。このふたりはもともとスコットランドの生まれで、それぞれ別々にカナダへ移住し、そこで教会員となったのでした。

スコットランドで生まれ、カナダで改宗したアレキサンダー・ライトとサミュエル・マリナーは、スコットランドでの伝道の召しを受け入れた。

スコットランドに到着して間もなく、プラット長老は、あとふたりの宣教師が欲しいという申請を出しました。その結果、アレキサンダー・ライトがハイラム・クラーク、ルーベン・ヘッドロックとベズリーで働くようになり、プラット長老はサミュエル・マリナーとエジンバラで働くことになりました。

エジンバラでの働きを始めたプラット長老は、町全体を見下ろせる小高い丘に登り、スコットランドを伝道の地として奉献し、200人の改宗者が与えられるようにと主に嘆願しました。

ふたりは毎夜、街に出て人々に福音を宣べ伝えました。そして安息日ともなれば、1日に7度も街頭で伝道し、マリナー長老の7人の親戚を含めて、23人を改

宗するまでに至りました。

しかし、街頭伝道のこの結果に満足できないプラット長老は、最初の示現、モルモン経、また教会の基本的な教えを網羅した、「驚くべき啓示」と題する31ページのパンフレットを著わしました。末日聖徒の信仰を要約したこのパンフレットは、結局デンマーク語、オランダ語、スペイン語、スウェーデン語、ウェールズ語に翻訳され、教会の伝道用文書の古典的名著となりました。プラット長老はさらに15冊のパンフレットを著わし、数多くの人々を教会へ導き入れました。

1841年に帰国するまでの間に、200人の改宗者をと願ったプラット長老の祈りは確かにかなえられました。彼はこう書い

オルソン・プラット長老は、エジンバラを見下ろす丘の上で、200人の改宗者が与えられるように祈った。





ブリガム ヤング

マンチェスター

ブリガム・ヤングの伝道 — イングランドにおけるモルモン経

ブリガム・ヤングが英国の地を踏んだのは、1840年4月のことでした。前任使徒であった彼は、他の使徒たちと共に出席したプレストンの集会で、十二使徒定員会会長としての支持と任命を受けました。ブリガム・ヤングが到着した当時、英国には1,600人強の末日聖徒がいましたが、ブリガム・ヤングとほかの使徒たちが英国に着いて初めて迎えた日曜日には、500人以上の教会員が彼らに会うために集まってきたのです。

その1週間後に、十二使徒の管理による最初の英国総大会が開かれ、席上伝道のみならず出版事業に対しても支持の挙手が取られました。そして讚美歌集の出版と、十分な会員数にかんがみて月刊の機関誌発行も承認されたのです。

しかし、これはほんの端緒に過ぎませんでした。1カ月後にブリガム・ヤングは予言者に、「人々が熱心にモルモン経を求めています」と書き送りました。ジョセフ・スミスはこれに対して英国でのモルモン経出版を承認しました。アメリカから取り寄せるにしても荷が届くまで何カ月もかかり、そのうえ輸入税を上積みすれば、とても英国の普通の会員たちが手を出せる値段ではなくなってしまうのです。

ブリガム・ヤングは早急にことを進める必要に迫られました。そして、ウィルフォード・ウッドラフ、ウイラー・ド・リチャーズと共に導きを求めて祈った結果、讚美歌集の発行、モルモン経の印刷を早めるために、マンチェスターへ行くようにという強い気持ちを感じました。

ブリガム・ヤングはヒーバー・C・キンボール、パーレー・P・プラット、ジョン・テイラーの協力を得て、早速その仕事に取りかかりました。3人は5,000冊のモルモン経の印刷を決めてから、どの業者に発注するかを決めるために、リバ



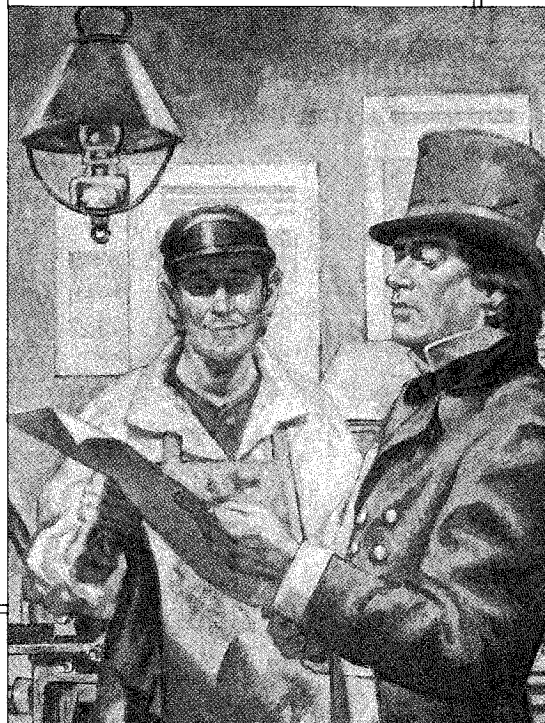
ブリガム・ヤングは祈りの中で、モルモン経の印刷を監督するためマンチェスターへ行くようにとの導きを与えられた。

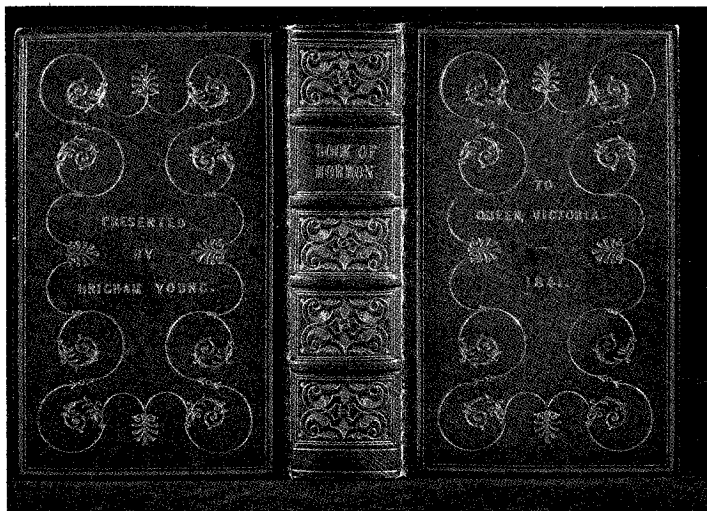
英国でのモルモン経発行は、ブリガム・ヤングにとって最も重要な仕事のひとつであった。

オルソン・プラット長老は、同僚と共に毎夜、また安息日には7回も街頭で人々に福音を宣べ伝えた。

ています。「明らかに神が送ってくださったメッセージを将来受け入れるようになる人が……数多くいる。」事実、何千人というスコットランド人が福音を受け入れ、その多くがアメリカへ渡り、ユタ州に住むようになりました。

プラット長老はその後も、英国やヨーロッパの伝道部を管理する責任、また1864年の最後のエジンバラ訪問などで、1881年に死去するまでの間に7回英国に戻っています。





1841年にビクトリア女王に献上されたモルモン経（英国国立図書館の好意により掲載）

プールとマンチェスターの印刷会社を一軒一軒訪ねました。

そして1841年の2月、アメリカ以外の国で初めて印刷されたモルモン経が発送を待つばかりとなったのです。ブリガム・ヤングはこうして、この大きな事業を成し遂げましたが、そろそろ帰国の日が近づいてきていました。彼は様々な点で教会の成長のために働きました。英国の教会管理形態を整え、強く必要とされていた出版物の刊行を監督し、聖徒たちのアメリカへの移住を助けるなど数多くの働きをしたのです。

ベンボー農場の池をきれいにしているウイルフォード・ウッドラフ。彼はここで何百人もの人々にバプテスマを施した。（リチャード・マレー画）



ウイルフォード ウッドラフ

ヘレフォードシャー

ウイルフォード・ウッドラフの伝道——
ヘレフォードシャーにおける収穫：1840年

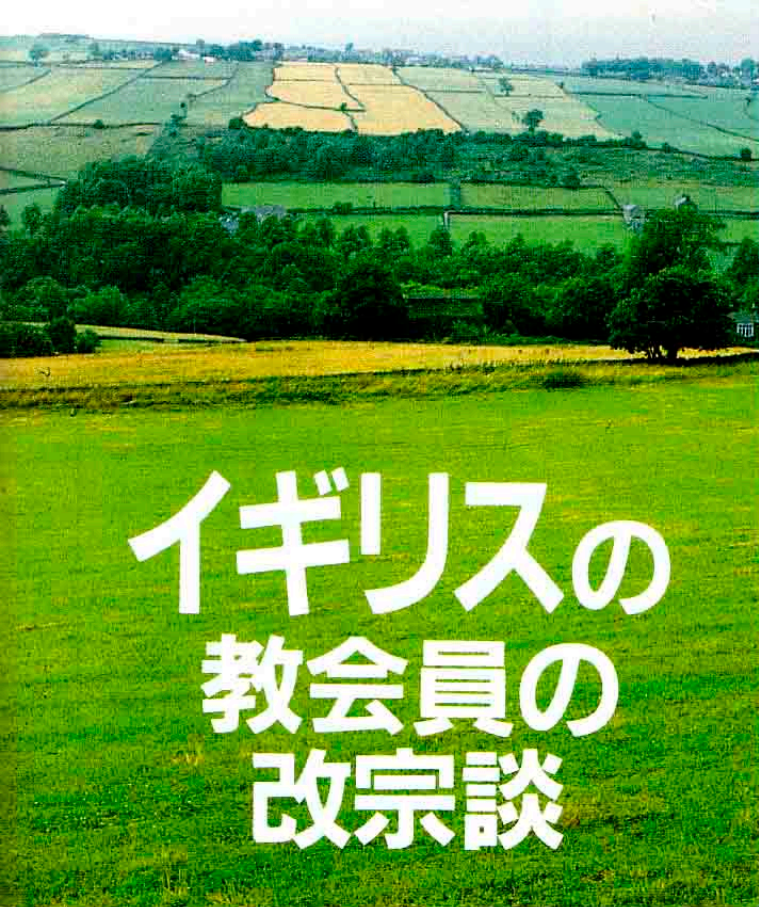
1839年に使徒に聖任され、1880年に大管長となったウイルフォード・ウッドラフは、みたまに導かれて南のヘレフォードシャーへ旅し、イングランド中部において大きな成功を収めました。それは教会史に残る、実り多いすばらしい伝道の旅でした。

ウッドラフ長老はジョン・ベンボーという人に会いました。彼は富農で、メソジスト教会から分かれたユナイテッド・プレズレン派の指導的な立場にある人でした。ユナイテッド・プレズレン派は40人近くの説教者に率いられた会員数約600人の団体で、人間が作り出した教えではなく、真のキリストの教えを探し求めていました。

ユナイテッド・プレズレン派の人々は、その指導者トーマス・キングストンがバプテスマを受けてからは特に回復された福音のメッセージをよく受け入れるようになり、その後の数週間に約320名の人々が彼のあとに従ってバプテスマを受けました。そのうちに、この地域の会員数は非常に多くなり、ふたつの地方部が組織されました。

ウイルフォード・ウッドラフがアメリカに帰国するまでに、このふたつの地方部は合計1,410人の会員を擁するまでに成長しました。そしてその内の300人は彼自身がバプテスマを施した人々だったのです。





イギリスの 教会員の 改宗談

アン・ペリー

今から150年前、また聖徒たちがソルトレーク峡谷に
避け所を求めて大平原を横断する10年前に当たる
1837年に、末日聖徒イエス・キリスト教会の最初の宣教師
がイギリスに到着しました。以来、多くのイギリス人が回
復された福音を聞いて、この教会に改宗してきました。そ
してその内の多くの会員がアメリカ合衆国へ移住し、信仰、
技術、才能を用いて教会の進歩成長のために働いてきたの
です。このイギリス伝道150周年を迎え、これまで様々な記
念行事が開かれてきました。大管長会をはじめ教会幹部
の出席のもとに、何カ所かで地区大会も催されています。
近年のイギリスの聖徒は、世界各国の兄弟姉妹と同じよう
に、自国に踏みとどまり、イギリスに神の王国を建設する
ために働いています。ここに紹介するイギリス各地の教会
員の証には、彼らの信仰、決意の強さがよく表われていま
す。

スコットランド北端沖のオークニー
諸島は、強風の吹きすさぶ地とし
て人々によく知られた所です。1919年に、
オークニーのホルムという所で生まれた
シャーロット・メイ・ゴーンは、農家の
子供として育てられ、小さいころから家
のあらゆる仕事を手伝いました。

第二次世界大戦中、彼女はイギリス空
軍のテレタイプオペレーターとして、
スコットランド、イングランド、最後
にはイタリアで働きました。そして戦後
は故郷のホルムへ帰り、母の死後、病身



シャーロット・メイ・ゴーン

兄の身の周りの世話を手伝いました。兄
が亡くなるとシャーロットは農業をやめ、
病院の受付、帳簿係、それにカークウォ
ールの町にあるホテルの受付で働いたり、
短期間地元の新聞社「オーカディアン」
で仕事をしたこともありました。やがて
地元の医療サービス機関に職を得、医療
に関する記録を付けたり、病人に適切な
医師を紹介したりする仕事を続けました。

今は退職してカークウォールに住んで
いますが、彼女が住んでいる家の庭には
様々な草花が植えられています。そして
定期的に「オーカディアン」紙に書評や、
地元を舞台にした小説を書いたりしてい
ます。

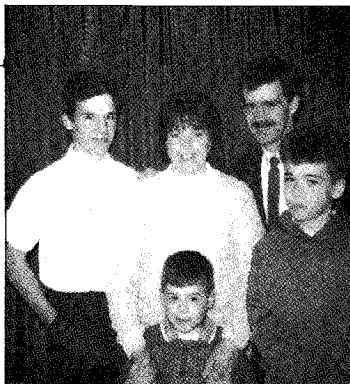
シャーロットは常に聖書を受読してい
ましたが、贖罪と人間の行く末について
疑問に思っていたことが数多くありまし
た。1977年のある日の夕方、宣教師が彼
女の家のドアをノックしたのです。その
ころペテロの手紙を読んでいたシャーロ
ットは、理解できないでいたすべての疑
問をふたりの宣教師にぶつけてみました。
宣教師はその一つ一つに答えました。こ
うして真理に目覚めたシャーロットはそ
の年の10月にバプテスマを受けたのです。

カークウォールの人々は一般に親しみ

やすく、宗教的にも寛容です。しかし、
シャーロットは敵意に満ちた目を向けら
れ、不愉快なことを言われたこともあり
ます。今では隣近所の家には招かれるこ
ともほとんどありません。しかし、彼女
は明るい笑顔でこう話しています。「何も後
悔はしていませんよ。この教会に入る前
の生活は、もうはるか昔のころのよう
に思えます。昔はすばらしいと思ったこ
とも、今では何とも感じません。何と言っ
ても、以前には思いもよらなかったすば
らしいことができるようになりましたもの。」

そのすばらしいこととは何でしょうか。
彼女は熱心に福音を学ぶようになりまし
た。彼女は3人の教会員（彼女自身とア
ーニー・フリート、マイナ・フリート）
しかいないオークニーの日曜学校で指揮
をし、教師として働いています。彼女は
美しい声の持ち主で、指揮の仕方でも学
びました。

シャーロットは波風の強い海峡をフェ
リーで越えて本土に渡り、アバディ
ーン・スコットランドステキ部のステ
キ部大会によく出席します。また、自
身のエンダウメントを受けるために、
何百キロも離れたロンドン神殿にも参
入しています。それでも彼女はほかの聖徒



右から
レサ・ダン
夫妻と3人の子
コリン・ダン、
テ

たちとの交わりを通して福音への理解をさらに深めたいとも願っています。「日曜学校の大きなクラスに出席し、レッスンを聞き、ほかの人に質問をしたり、教えてもらいながら勉強したいと思うことがよくあります。」

しかし彼女は、自分自身で学ぶことによって数多くの祝福を得ています。「教会に入ったばかりのころ、私は什分の一のことをよく理解していませんでした。1、2年してから、自分の什分の一の額の決め方が間違っていることに気づきました。それで会計士のところへ行き、差額がどれくらいかをはっきりさせるために計算をしてもらうことにしました。大変な額になっているのではないかと思います、ドキドキしながらその事務所のドアをたたきました。ところがそのときに、とても温かな気持ちを感じたのです。だれかが私の頭にやさしく手を置いてくれたように感じました。実際に手の重みを感じたような気がしたのです。それで本当に大きな幸福感と喜びに満たされました。」

その差額はもらったばかりの給料の3割ほどの金額でしたが、彼女はそれをすぐに納めました。彼女はこう言っています。「その幸福な気持ちと、頭の上に手を置かれて祝福を与えられたように感じたあのときのことは決して忘れられません。」

アイルランド共和国のコリン・ダンとその妻テレサはどちらもカトリックの家庭からの改宗者です。ふたりが初めて宣教師の訪問を受けたのは、自分たちの家を買うお金をためようと、テレサの母親と一緒に住んでいたときのことです。テレサは宣教師を丁重に迎え入れました。

コリンは当時を回想しながらこう言っています。「私たちは彼らの話を聞き、モルモン経も受け取りましたが、自分たちの信仰を変える気持ちはありませんでした。」テレサは次のように言っています。

「私はいつかモルモン経を突き返そうと思ってその機会をねらっていましたが、どういうわけか9カ月たって引越すときに、一緒に持ってきてしまいました。」

ある日窓越しに外を見ていると、ふたりの若い女性が道路できよろきよろしているのが見えました。道がわからないで困っているのだらうと思い、助けてあげようと外に出ようとすると、そのふたりがそれまで一度も見たことのないようなすてきな笑顔を浮かべて我が家の玄関口に立っていたのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師であるというふたりの自己紹介を聞いて、私は思わず『ついにあの本を突き返すチャンスが来た』と心の中で叫びました。しかし、ふたりは、もしよければ次の日の晩にまた来たいので、それまで本を返すのは待ってもらえないかと言ってきました。コリンはその申し出を受け入れ、その日はとにかくレッスンを受けたのです。私はふたりを改宗してやろうと心に決め、混乱させるためにありとあらゆる種類の質問を考え出しました。しかし姉妹たちはその質問にすべて答え、その後3カ月間、我が家への訪問を続けたのです。」

社会的な重圧、長年の友達の熱心な説得などがありましたが、テレサは1975年11月22日にバプテスマを受けました。彼女はこう言っています。「自分が福音は真実だと信じていることを神がご存じだとしたら、どうして元の生活に戻ることができのでしょうか。」

しかしコリンの場合、その確信はゆっくりとやって来ました。最後に宣教師がひざまずいて祈り、福音に対して疑問に思っていることを尋ねるようにとチャレンジしました。そしてコリンは宣教師の言葉どおりに、ひざまずいて率直な言葉で祈り、ジョセフ・スミスが真の予言者であり、モルモン経が神のみ言葉かどうか尋ねました。そして彼は心の内にはっきりとした答えを感じ取ったのです。あたかもだれかが語りかけたような感じでした。「あなたは自分で真実だと知っていることを、なぜ私に聞くのか。」コリンはその答えを受け、強い確信をもって立ち上がりました。「私は福音が真実なことを知っていたのです。そして神も私が知っ

ているということをご存じでした。あとはそれに従って生活するよりほかに何もありませんでした。」

マーサー・ディビル・ウェルズステーキ部のステーキ部長をしているジョン・マホニーも福音への証に心を動かされたひとりでした。ジョンは生まれはマーサーでしたが、成長期を北イングランドで過ごし、マーサーに戻って来たのは大分大きくなってからのことでした。彼は1956年にイーニッド・プライスという末日聖徒の女性に出会い、強く心ひかれました。彼はそれ以前にモルモンについて聞いたことは一度もありませんでした。ジョンは自分は宗教を変えるつもりはまったくないと言うと、彼女も教会員でない人とは絶対に結婚しないと静かに答えました。そしてイーニッドはジョンに、あとは彼の気持ち次第だと言ったのです。

ジョンはイーニッドと一緒に教会へ行き始め、やがて宣教師からレッスンを受けられるようになりました。半年が過ぎたころ、彼はこの教会が真実であることが理解できるようになりました。しかし、まだ霊的な証を受けるまでに至らず、バプテスマを受けることには抵抗していました。

ジョンはマーサーを離れて働いていたある日、教会のことについて祈ってみました。「そのとき、心の中に激しく燃えるような思いを感じました。私は完全に圧倒され、死んでしまうのではないかと感じたほどでした。そして心の中に^{なんじ}汝^{うち}の中によく思い計り、その後願うこともし正しければ汝願わざるべからず。願うこと正しければ、その時われ汝の心を内に燃やさん」という教義と聖約9章8節の言葉がすぐに浮かんできました。」

ジョンはこうして、1956年12月22日にバプテスマを受けました。彼は18歳で日曜学校の教師になり、次に支部の書記を

ラーシダ・チャールズとクリストファー・チャールズ





前列左からイーニッド・マホニー、孫のイレノア・モーガン、娘のキャサリン・J・モーガン。後列左からジョン・マホニー、息子のJ・グレン・マホニー、レイノルド・J・マホニー、キャサリンの夫ジョン・W・モーガン

務めました。そして19歳6カ月のときにイーニッドと結婚し、20歳のときに、当時の英国では最年少の支部長となったのです。

彼は熱心に系図の探求を行ない、全国放送の人気テレビ番組に出演し、マーサーの系図図書館分館の紹介をしたこともあります。

イーニッド・マホニーは、ウェールズの初期の改宗者で、1869年にユタに移住したモーゼス・ジョーンズの子孫です。モーゼスの家族たちも、彼に従って行くかに思われましたが、長い間ためらっていた後に、結局はマーサー・ディドビルにとどまることに決め、そうこうしているうちにやがて教会から遠ざかってしまったのです。モーゼスの孫にあたるイーニッドの母のエレンが、自分の家系にあったそのようないきさつなどまったく知らないままに、宣教師のレッスンを受け、バプテスマを受けたのは1932年のことでした。彼女が自分の家族の末日聖徒としての背景を知ったのは、その後のことで

レン・ファロー、リタ・ファロー夫妻



英国国会議事堂



した。

イーニッドの教会での奉仕は、まだ若いときから始まりました。15歳のときに務めた責任が初等協会の会長でした。それ以来、様々な分野の責任を果たし、地方部のMIA会長の召しを受けたこともありました。

人生の様々な疑問について熱心に答えを求めていたイングランドのクリストファー・チャールズとラーシダ・チャールズ夫妻は、福音を受け入れるよう、みたまによって備えられていました。ふたりが先祖から受け継いでいたものは、英国諸島の多くの末日聖徒たちのそれとは異なるものでした。1950年にロンドンで生まれたクリストファーの両親は、どちらもギリシャ系キプロス人だったのです。彼は少年のころに、母親が通っていた教会へ行くのをやめ、自分自身で信じられるものを探し始めました。彼はいくつかの教会に行ってみましたが、自分が探し求めていたものを見つけるまでには数年の年月が必要でした。

クリストファーがラーシダに会ったのは、彼が17歳、彼女が14歳のときでした。そしてその5年後に、ふたりは結婚しました。ラーシダの父親は毛皮商をしていたパキスタン人で、母親はスコットランド人でした。

幼いころに弟を亡くし、姉の痛ましい死などを経験したラーシダは、宗教のことを深く考え、死や復活について疑問に思うことがいろいろありました。自分が愛していた人々がそう簡単に消滅してしまうとはどうしても考えられなかったのです。「私はどの教会が正しいのか、その答えがもらえるように祈り始めました。」

その2週間後に、姉妹宣教師が彼女の家を訪問し、ラーシダは自分が前に祈り求めたことを思い出しました。彼女はすぐに「これは真理である」と心の中に響くひとつの声を聞いたのです。そして第1回目のレッスンを学ばないうちから、確かにそのとおりであると理解しました。

3日後に、宣教師はチャールズ家の人人に最初のレッスンを教えました。クリストファーとラーシダは2回目のレッスンも教えるまで、宣教師を帰そうともしませんでした。クリストファーはこう言っています。「宣教師たちは家の中にみたま

を運んできました。それはすばらしいもので、またとても大切なものでした。宣教師がいるときにはそれを強く感じ、彼女たちが去っていくと、その感じもなくなりました。」

ふたりはその3週間後にバプテスマを受けました。そしてクリストファーは1カ月もたたないうちに日曜学校会長の責任を与えられました。以来、高等評議員、第二副ステーク部長を歴任し、1982年からは第一副ステーク部長の責任を受けて働いています。ラーシダもワード部やステーク部で指導的な責任を果たしてきましたが、彼女が特に楽しく果たしてきたのは、神殿準備コースの教師の召しでした。

ラーシダは子供が好きでしたが、結婚後随分年月がたっているのに、子供に恵まれませんでした。よく考え、祈った末にふたりは教会のプログラムを通して養子をとることにしました。

新しく家族の一員となる女の子が来たと聞かされたときの気持ちを、ラーシダはこう言っています。「私は自分がどんな気持ちになるのか、まったく見当もつきませんでした。果たしてその子供が、自分たちの血肉を分けた子供と同じように、永遠の家族のひとりになれるのだろうかなどと気持ちが揺らいでいました。」

私は部屋に入って、その小さな子供を抱き上げました。そしてこっちを向いてじっと私の目を見つめるあの子を見たときに、私は強い感動を覚えました。そしてほんのつかの間でしたが、彼女の成熟した霊が『そうです、私はあなたたちと一緒にいるように定められていたのです』と語りかけていると、はっきり感じました。そのときの安らかな気持ちは何と言ってもいいかわからないほどのものでした。それから私は赤ちゃんを夫に渡しました。」

ラーシダはその体験を何とか言葉でクリストファーに伝えようとしたのですが、「彼はそれを完全に理解していました。彼もまったく同じ証を受けていたのです。」

クリストファーとラーシダは、自分たちの知識と愛のすべてを娘に与えようと決心しています。ふたりはそれによって、自分たちに与えられている数々の賜に対



1. オルソン・ブラットが200人の改宗者が与えられるように祈った場所。2. ウェルズのラネリ礼拝堂。英国における当教会最初の礼拝堂。3. リバプール音楽堂。当時としては最も美しく、大きな音楽堂で、ジョン・テイラーは1年間ここを借りて、毎週集会を開いた。4. 英国を訪れたデビッド・O・マッケイ大管長。5. 1955年、ロンドン・ロイヤル・アルバートホールにおけるタバナクル合唱団の公演。6. ロンドン神殿。7. イングランドのウォーウィックシャー、ソリハルにある地域管理本部。

する心からの感謝の気持ちを主に伝えたいと願っているのです。

イングランド北部のダラム県ピーターリーに住むレン・ファーローとリタ・ファーロー夫妻も、やはり主の恵みに対して強い感謝の念を抱いています。

レンは1968年に教会員になると、すぐに日曜学校の管理役員の責任に召されました。しかし、彼は自分にはとてもその責任を果たすための力はないと思っていましたし、信仰についての理解もまだ十分とは言えませんでした。そして離婚歴

のあるリタと再婚した1982年の暮れごろまで、教会の活動からはずっと遠ざかっていたのです。

いつもほほえみを絶やさず、親しみやすく温かな人柄で、社交性に富むレンは、現在ピーターリー支部の第二副支部長と長老定員会の第二副会長の責任を受けています。しかし、彼の深い愛は、お休み会員にフェローシップの手を差し伸べ、福音の中へ戻って来るように励ますホームティーチャーとしての働きの中に最もよく表われています。彼はこう言っています。「私の目標は、30人の長老見込み会員に働きかけて、戻ってきてもらうことです。」

リタは以前別の教会に通っていました。彼女の成人した子供たちは今もその教会に属しています。彼女は「霊的な力を何も感じられなかった」という8年に及ぶ最初の結婚生活に終止符を打ってから、非常に孤独感と、神から切り離されたという気持ちで悩み苦しみました。「それまでに教えられていた宗教は私にとって何の価値もないものになっていました。でも、私は福音には長い間自分が学んできたものとは何か別なもの、またもっと深い意味があるはずだと確信していました。」

宣教師たちが訪ねてきたとき、私は彼らの話に耳を傾けました。そして、たとえば家族にどんなにいやな顔をされても、天父を第一に考えなければならぬと固く信じていました。神の道を歩いていくためには、これは絶対、永遠に見失ってはならないと信じています。」

リタが心から愛する子供たちは、彼女のバプテスマに強く反対しました。そのためか、リタは体の具合がひどく悪くなり、病院の集中治療室で5日間を過ごしました。しかし間もなく快復し、1982年9月21日にバプテスマを受けたのです。

リタはこれまで教会の様々な指導的な

4 責任を果たしてきました。彼女は非常に控え目な女性ですが、確かな判断力と人の最も良いところを引き出す力を持っています。

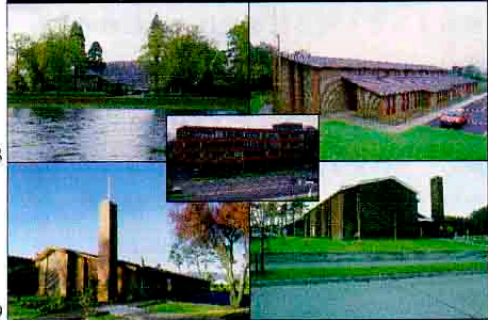
彼女はしっかりと強い証を持っています。「たとえどんなに大きな犠牲を求められたとしても、真の幸福を得るには、天父をまず第一に考えなければなりません。」彼女はルカ伝9章62節の次の言葉を引用しました。「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである。」

彼女がしっかりと強い証を持っています。「たとえどんなに大きな犠牲を求められたとしても、真の幸福を得るには、天父をまず第一に考えなければなりません。」彼女はルカ伝9章62節の次の言葉を引用しました。「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである。」

イングランド北部では、教会の歴史はそう長いものではありませんが、会員たちの間には確かな勇気が見られます。またアイルランドの会員たちには非常に大きなチャレンジがありますが、彼らはそれによくこたえています。ウェルズ南部では、教会は長い歴史を持ち、強固に立っています。そしてイングランド南部の教会は多くの会員を擁し、今も成長しています。それに比べて、スコットランドでは教会員の数も少なく、広い地域に散在していますが、それでも彼らは真理を知り、決して昔の生活に戻ろうとはしません。

シャーロット・メイ・ゴーンの証はイギリスの多くの教会員の気持ちをよく代弁しているように思われます。「宣教師が引きあげられて、カークウォールに残されたのは私たち3人だけでした。それで私は本当に心細く思うことが何度もありました。でも、ちょうどそんなときでした。私は心の中にはっきりと響く『我は神なり。我は悪魔よりも強し、わが教会を倒し得るものは何ものなし』という声を聞いたのです。」□

* ノーウィッチ・イングランドステークス部で広報ディレクターの責任にあるアン・ベリーは、有名な推理小説作家である。



6

10

11



家庭訪問メッセージ

祝福と責任

現代の末日聖徒の女性

目的:この時代に末日聖徒の女性として生きる祝福に感謝する。

中 央扶助協会会長のバーバラ・W・ウインダー姉妹は次のように述べています。「現代の末日聖徒の女性は、これまでのどの時代の人々も経験したことのない計り知れない祝福を受けていますが、同時にきわめて神聖な責任も与えられています。」これらの祝福、責任には、物質的な面においても霊的な面においても知識を身につけること、また、ほかの人に奉仕することや、子供たちを育てあげることなどが含まれます。

知 識

エセル・スミス・マセソンは非常に知識欲旺盛な若い女性でしたが、家が農業を営んでいたせいもあって、あまり教育の機会には恵まれませんでした。それでも彼女は読書の楽しみを見だし、努力して大学を出ました。そして後に、彼女の子供は薬学や化学で学位を取得しています。彼女は目が不自由になってくると、今度はレコードやテープを聞いて、勉強を続けました。彼女は実的に的確に聖句を引用したものです。

奉 仕

人に奉仕する機会に至る所にあります。そして、どんな小さな働きでも大切でないものはありません。ヒンクレー副管長は、女性は「本能的に困っている人を助けようという性質があり……」（『教会の女性の皆さんへ』「聖徒の道」1986年1月号、pp.85-86）と言っています。ディーン・L・ラーセン長老は自分の娘と一緒にある店に行ったときのことを次のように話しています。そのとき、近くにいた客が磁器の置き物を床に落としてしまいました。

「私は反射的に後ずさりしました。ところが、娘は反射的に……さっとこの老婦人のそばに寄り、彼女に腕を回して、慰めの言葉をかけたのです。娘はそれから、かがんで磁器のかけらを拾い始めました。」（『調整と協力』「聖徒の

道」1986年1月号、p.90）

家 族

エズラ・タフト・ベンソン大管長は母親としての責任について、次のように話しています。「世の初めから〔母親の〕務めは、福音の永遠の原則を子供たちに教えることでした。また母親には子供たちに愛と安らぎの安息の場を与える責任があります。……家庭こそ、子供が信仰について学び、愛を感じ、母親の生きた模範から正義を選ぶことを学んでいく場所なのです。」（『栄えある女性の務め』「聖徒の道」1982年4月号、pp.178, 179）

「その子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むことを教え」（教義と聖約68：28）時間はそう長くは与えられていません。したがって母親はこの神聖な責任を果たすことをまず第1に考えなければなりません。

現世において、すべての女性が母親になる機会にあずかるとは限りませんが、様々な機会を通して、育児に関与することができます。ある年配の姉妹は仕事が終わってから、大勢の子供がいる家庭を訪ね、若い母親を助けていました。そして教会の集会でもその家族と一緒に座って何くれとなく子供たちの世話をしました。そのようなことを通して彼女は大きな喜びを得ることができました。□

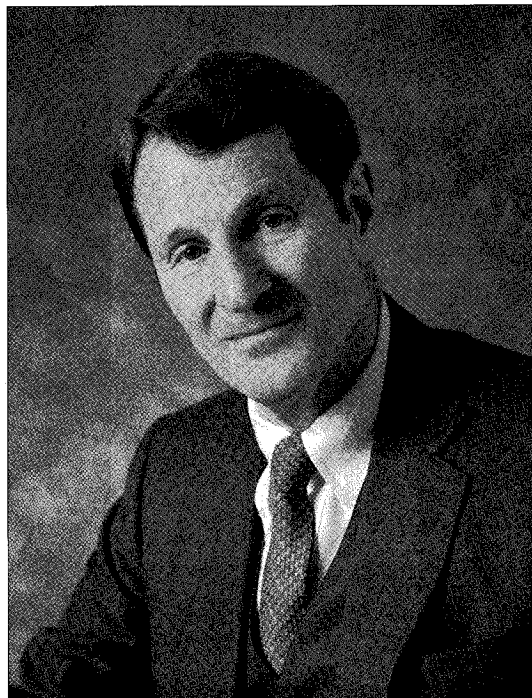
訪問教師への提案

1. どうしたら学び続けていくことができるか、その方法について話し合う。
2. 教義と聖約58：27-28を読み、みたまのささやきに絶えず耳を傾けることにより、家庭、ワード部、支部、地域社会において、どのように奉仕する力を伸ばし、機会を広げていくことができるかについて話し合う。（『家庭の夕べアイデア集』第20, 21, 25課参照）

ニール・A・マックスウェル長老

「最もすぐれた道」を追い求める人

管理監督会第一副監督
ヘンリー・B・アイリング



十 二使徒評議会会員のニール・A・マックスウェル長老は、皆さんがオフィスを訪れるといすから立ち上がり、机の脇を回り皆さんの方まで来て出迎えてくれます。そして皆さんと一緒に過ごす時間を、愛に満ちたすばらしい時間してくれます。

皆さんは、マックスウェル長老がすべての関心を皆さんに向け、話の意図をくむことに注意を集中してくれていることに気づくでしょう。彼はそうして皆さんの意図していることや感じていることを理解しようと努めているのです。「『集中力』という言葉はニールを理解する鍵です。彼はちょうど光を集めるレンズのように、自分のエネルギーを目の前の問題に集中させることができるのです。」ある旧友はこう語っています。

この言葉は、マックスウェル長老の才能や人々と協力して働く賜、豊かな創造性を的確に表現しています。

獣医になる希望

1926年7月6日、クラレンス・マックスウェル、エマ・アッシュ・マックスウェル夫妻の間の6人の子供のうち最初の子として生まれたニールは、ソルトレーク盆地の当時の農業地帯で育ちました。彼はスポーツと動物に大変興味を持っていました。(一時は獣医になろうとまで考えていました) また、ニールの文才は高校に入る前から周囲の目を引いていましたが、ある熱心な教師から、さらに磨きをかけるようにチャレンジを受けて以来、大いにその才能を伸ばすことになりました。

1944年、高校を卒業したニールは、間もなく太平洋岸地域で軍務に服することになりました。彼の文才は、受賞した兵士のための賞状や戦死した兵士の家族あての手紙の作成などに、大いに発揮されました。同時にそれは、この若い兵士にとって同情心を培う良い経験となりました。

軍務を解かれてから、ニールはカナダ東部の伝道に召さ

れました。彼は、監督からの伝道の面接を待ってはいませんでした。自分から伝道に出たい旨を監督に伝えたのです。伝道の費用は、軍隊にいたときからの貯金で賄いました。ニールの文筆家としての才能はここでも力を発揮します。彼は新しいレスンプランを書きあげ、それが自分の伝道地やほかの伝道部でも使われるようになったのです。

伝道を終えたニールはユタ大学に入り、それから3年もたたないうちに政治学で学位を修めました。

「尊敬されている人」

コリーン・ヒンクレーがニールに出会ったのは大学時代でした。「だれに聞いても、皆から尊敬されている人、という特別な印象を受けました。」彼女はこう語っています。大学を卒業したコリーンは、学校の教師となってアリゾナへ赴きました。翌年の夏、コリーンが家に戻ってから、ふたりの交際が始まりました。そして1950年11月22日、ふたりはソルトレーク神殿で結婚しました。

ニールの大学卒業を待って、ふたりは首都であるワシントンD. C. に移りました。ニールはそこで、ユタ州の上院議員ウォレス・F・ベネットの秘書のひとりとして働きました。この時期は彼にとって大きな成長の時期であり、また福音を通して世の中の問題を見る眼を養った時期でもありました。ここで得た経験が後に、ユタ大学で政治学の教鞭をとる彼の教授法を形作ることになるのです。

「ワシントンにいたときは、いやおうなしにあらゆる種類の権力を見せつけられました。そこを去ったときには、教義と聖約の第121章に対する深い感謝の念を抱いていました。」彼はこう語っています。「ほとんどの人は権力を上手に管理することができません。ワシントンでの経験を通して、私は権力をどのように用いたらよいかを知ることができました。」

当時の若いニール・マックスウェルにとって、政治の仕事は魅力あふれるものでした。彼は、政治力を上手に用いればどんな社会悪も根絶できると思っていたのです。しかし様々な経験を得、時間が経過するにつれて、その見方は変わってきました。彼は、人々を正しい生活へと導く「福音にこそ人間の問題に対する解決策がある」と信じるようになったのです。彼はこう語っています。「人間の問題に対する政治的なアプローチは役には立ちますが、実際の解決にはつながりません。福音こそが解決をもたらしてくれるのです。」

新しい仕事

ユタで地域社会への奉仕と高等教育に力を注いだ後、1960年代後半から70年代初めにかけて、彼は政治的な組織で働くよりも個人に直接影響を与えることのできる教会や地域、学校などの仕事に専念し、もっと意義のある人生を送りたいと思うようになっていました。

彼が政治の世界から身を引いたのは1950年代の中ごろ、皮肉なことに、ベネット上院議員の選挙戦のために、ユタ

に戻っていたときでした。彼はそこでユタ大学に新しくパブリックリレーションズの学部が開設されることを知り、妻コリーンの勧めを受けて、そこに採用願いを出したのです。

しかし、なぜコリーンはそれほど勧めるのだろうか。ニールは考えました。

大学には人々に奉仕する機会がたくさんあるというのが彼女の言い分でした。希望どおり採用された彼は、その後、学長補佐、学生部長、そしてついには副学長としての道を歩むことになるのです。

彼は大学で長年にわたって政治学を教えてきました。生徒たちの高い評判を勝ち得ているだけではなく、教授法に関して様々な賞を受けています。彼の影響を受けて自分の可能性を知った何百人もの若者たちが、今日それぞれの道を歩んでいます。

こうした教育の場での経験を通して、彼はワシントンにいたころに抱き始めた確信を深めることができました。「ある意味で大学は私にとって、福音の概念は問題に解答を与えるだけでなく、答えを導き出すためにも力を発揮する、ということを理解させてくれた場だとも言えます。」マックスウェル長老はこう述懐しています。彼は、モーサヤ書第29章にある政治に関する概念を、きわめて実用であると考えています。

福音の原則を数々あるこの世の問題に応用していく彼の技術は、ハロルド・B・リー大管長との親交を通して培われたものと言えます。教会幹部の召しを受ける前のニール・マックスウェル長老は、地区代表や、そのほか教会の指導者と身近に接することのできる責任を数多く受けて働いていました。

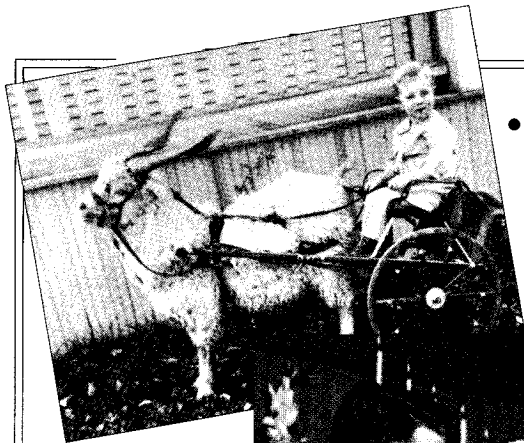
「真理を恐れる必要はない」

「私はリー大管長から、教会は真理を恐れる必要がないこと、有用なもの、真実なもの、賞賛に値するものは何であつても、教会の男女の中に見いだせること、したがって私たちは恐れ、ひるむ必要はないというすばらしい認識を与えられました。」マックスウェル長老はこう語っています。彼はリー大管長とあるお休み会員を訪問したときのことを覚えています。この会員は、教会が必要としていたある技術を身につけていました。リー大管長は、その人から必要な知識を教えようとして同時に彼自身が生活の中でしなくてはならないことをやさしく説いたのです。

1970年、マックスウェル兄弟は教会の教育理事長としての責任を受けるためにユタ大学を去りました。そして4年後には十二使徒補助に召されました。また、1976年に七十人第一定員会が組織されたときには会長会に、1981年には十二使徒定員会の会員に召されています。

マックスウェル長老を十二使徒補助に、また十二使徒のひとりに召したのは、スペンサー・W・キンボール大管長でした。最初の召しを与えられたのは次のような状況下でした。当時、マックスウェル長老と同じワード部の会員で

●4歳のころのニール



●(左上) 合衆国歩兵時代のニール・マックスウェル、1944年。
(右上) 1950年11月22日、結婚式の日、新婦のコリー・ヒンクレー・マックスウェルと共に

あったキンボール大管長が、ある晩彼の家立ち寄り、多忙な一日の仕事を終えてくつろいでいるマックスウェル長老に、十二使徒補助の召しを伝えたのです。しかし、次の十二使徒評議員会への召しは、当時定員会に空席がなかっただけに、まさに晴天のへきれきでした。(マックスウェル長老は、ゴードン・B・ヒンクレー長老が大管長会の副管長に召されたその同じ日に召されています) この2度目の召しがきたのは、マックスウェル長老が手術を終えてまだ病院の快復室にいたときでした。最初にキンボール大管長が部屋に入ってこられたときは、人々への思いやりの深い大管長がお見舞いだけの用件で来てくださったのだと思いました。

視野を広げる

「入院中の人々を見舞うという(キンボール大管長が示してくださった)クリスチャンとしての特質は、非常に強い印象を私に残しました」とマックスウェル長老は述べています。「私はとても大管長には及びませんが、もし私にもそのような特質がたとえわずかでもあるとすれば、それはキンボール大管長の模範のお陰です。」

マックスウェル長老はまた、現在の大管長との交わりを通して、奉仕についての視野を広げることができました。

『神の王国のために最善のものは何か』というエズラ・タフト・ベンソン大管長が打ち出しておられる指針は、彼の在任中、最も際立ったものとなるに違いありません。この指針は、私たち一人一人が実生活の中に取り入れなければならないものです。もしこれを実行するなら、私たちの中から多くの不幸を取り除き、人々の生活にさらに大きな幸福をもたらすことができるでしょう。」マックスウェル長老はこう語っています。

同僚であるほかの多くの教会幹部のように、マックスウェル長老も人目につかない静かな働きを続けています。マックスウェル長老と親しく接している人々は、彼の頭の中に、個人的な援助と励ましによって力づけられそうな人々の長いリストが入っていることを承知しています。苦しむ人々に、彼らが必要とされ、意義ある存在であることを感じさせる稀有な賜をマックスウェル長老は持っているのです。

人々への思いやり

体操の選手権保持者だったジャン・エリンソン姉妹は、数年前、練習中の悲劇的な事故により両足が動かなくなっていました。人々に仕えるいろいろな方法を学びながら人生を送ってきたエリンソン姉妹は、絶えずマックスウェル長老に励まされてきました。「私は、マックスウェル長老が手を差し伸べ、心を変えてくださった数多い人々のうちのひとりにすぎません。」エリンソン姉妹はこう話しています。

マックスウェル長老は、ブリガム・ヤング大学内にあるJ・ルーベン・クラーク法律学校での息子の卒業式で、法科生デビッド・シルベスター兄弟と初めて会いました。卒業証書を受け取ったデビッド兄弟は、教授やほかの卒業生たちから大喝采を浴びました。この兄弟は最終学年で3度もの癌の手術に耐え、化学療法を受けながらも、一度も授業を休まなかったのです。その後、マックスウェル長老はひそかにデビッド兄弟を訪れ、手紙を書き、電話を入れて励ましを与え続け、青年が亡くなるまで友情を深めていったのです。

マックスウェル長老は人々の必要を敏感にとらえる人ですが、それが家族となるとまた格別ようです。マックスウェル家の4人の子供のうち2番目のコリー(上には姉のベッキー、下には妹のナンシーとジェーンがいる)は、かつて家から離れて住んでいたときに、いつも必要なときに父親から電話がかかってきたと語っています。電話の向こうから聞こえてくるマックスウェル長老の対応から、息子がそのときに必要としている助言を父親が心得ていることは明らかでした。

コリーはまた、8歳か9歳のときのことをこう思い返しています。「父が私に、親としての彼をどう思うか、特にしつけに関してはどうかと、尋ねたことがありました。確か父はこう言いました。『お父さんは厳しすぎると思うかい、それとも厳しさが足りないと思うかい。』私はちょうどいい

主

はその属性と、知識と、偉業と、経験において、
まさに比類なきお方であります。

にもかかわらず、主は私たちを「友」と呼んでくださっています。

ニール・A・マックスウェル



と答えました。そんな年齢の私にも心をかけ、自分のことを振り返る父でした。」

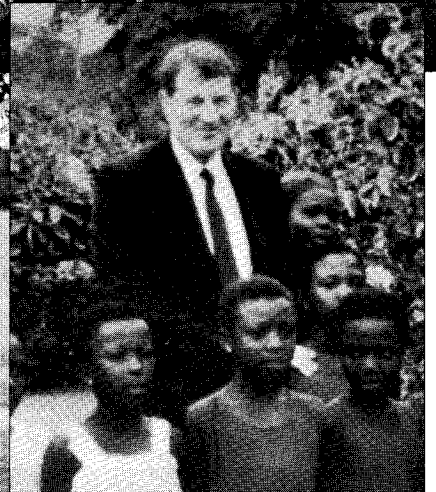
家庭の中に笑いを絶やさない人

マックスウェル長老がどれほど家族を大切に考えているかは、数年前、彼がユタ州弁護士会の会員を前に語った次の言葉にはっきりと表われています。「会議机を前にしての成功は、家庭で夕食のテーブルを前にしたときの成功ほど重要なものではありません。」

マックスウェル家の夕食時はいつも楽しい会話であふれていたことを、娘のナンシー・マックスウェル・アンダーソン姉妹は思い出します。父親の機知に富んだ話のお陰で、家庭の中には笑顔が絶えませんでした。

家族の活動の中でマックスウェル家の父親のお気に入り

●(右上)子供や孫たちに囲まれたマックスウェル夫妻。(右)孫たちとゲームに興じるニール・マックスウェル。(右端)西アフリカのガーナを訪れたマックスウェル長老(長老は1985年に、この地域で最初の集会所を奉獻した)。(右下)マックスウェル長老夫妻。



は、福音に関する真剣な話し合いです。これは昔から変わりません。彼は4人の子供たちや彼らの伴侶と共に、聖典について語り合うことを大きな喜びとしています。話し合いといっても、父親が自分の考えを披露するのではなく、意見を交換し、相手の話に耳を傾けるのです。家族が集まると彼は決まってこう言うのです。「福音についての話し合いはいつにしようかね。」末娘のジェーン・マックスウェル・サンダース姉妹は、最近の家族の集いで行なわれた福音についての話し合いを、一番すばらしい思い出のひとつに数えています。彼が十二使徒に召されて以来、そうした話し合いをするたびに「もっと霊性を高めなくては、という気持ちにさせられます」と語るのはナンシーです。彼女はさらにこうつけ加えています。「父は私たちに、もっとたくさん証を分かち合いたいと思っているんです。」

大きな愛と信頼

子供たちがまだ小さかったころ、マックスウェル長老は子供たちともっと親しくなって自分の気持ちを伝える方法はないか、よく考えました。子供とふたりだけで思い出深



い対話の時間を持ったこともあります。また、手紙もよく書きました。それは子供たち一人一人にあてた個人的なもので、中には受け取る子供の長所が書き連ねてありました。この手紙は十代の子供たちにとって、父親の愛情を知る大切な機会になったと、マックスウェル家の長女ベッキー・マックスウェル・アランダー姉妹は語っています。しかもこの手紙は、彼女が結婚してからも、今に至るまで続いているのです。

彼らは常に父親の大きな愛と信頼を感じ取ってきました。「父は、人に向上したいという気持ちを与えることのできる人です」とジェーンは語っています。

マックスウェル長老には特別な趣味はありませんが、それでも余暇は大いに楽しんでいます。「父はテニスが大好きです。」娘のナンシーはそう言います。「父にとってテニスコートはあり余るエネルギーの発散場所になっているのです。」

去年60歳の誕生日を迎えるまで、マックスウェル長老は自分の息子や義理の息子たちに、テニスで自分を負かしてみよう挑戦していました。もちろんだれにも負けませんでした。腕前はかなりのものなのです。「私は伝道に出る前に一度だけ父を負かしたことがあります。」コリーはそう話しています。「父は私たちに全力を尽くしてプレーをするように言います。もちろん父も本気です。」

飽くことなく書き続ける人

彼は書くことにも同じだけのエネルギーを使っています。読書範囲は、新聞から歴史書、伝記、哲学書に至るまで広範囲に及んでいます。読書は彼にとって、物を書く力の源泉になっています。「彼は、読書で情報を吸収し、王国に寄与する概念を編み出すのです。」ひとりの友人はこう語っています。

マックスウェル長老は飽くことなく書き続ける人です。コリーン・マックスウェル姉妹はこのように話しています。「夫は外出していても絶えず何かを書いています。どこへ行くにも小さなノートを携えていき、何か考えが浮かぶとそれを書き留めておくんです。」彼はこれまでに数えきれないほどの記事や話を書いてきました。著書は17冊を数えます。

そもそもマックスウェル長老が本を書くようになったのは、妻からの勧めがあったからでした。彼女は様々な点で夫を助けてきました。特に現在の召しに関しては、「父は、母がいなかったらやってこれなかったと言っています」とナンシーが語るほど大きな存在なのです。

ジェーンはさらに、マックスウェル長老が教会の責任でいつ、どれだけ家を空けようと、母親は決して不平を言わなかったと語っています。不平どころか、マックスウェル姉妹は留守をしている夫への思いを伝えるために、夫の荷物の中に愛情の込められた言葉を書いたカードや好物のキャンディーをしのばせておくのです。

マックスウェル長老は、姉妹に対して心からの賛辞を贈

るとともに、彼女が熱心に聖典を学ぶ模範を示してくれることに感謝しています。福音についての話し合いの中で、妻からたくさんのことを学んでいるとマックスウェル長老は語っています。妻の方が自分よりも「完璧な」クリスチャンである、というのが彼の持論です。彼女にあるのはひたすら人々に仕えたいという強い気持ちだけで、人々からの感謝を望む気持ちは毛頭ありません。彼女は夫にとっても子供たちにとってもすばらしい模範なのです。

「すばらしい経験」

これらの賛辞に対して、彼女は、長年彼に連れ添って夫の福音の知識や救い主に対する愛が深まっていくのを見られたことは「すばらしい経験」だったと語っています。

「主人はとても変わったと思います。私は、能力を磨き進歩しようとする彼の熱意を、ずっと傍らで見守ってきました。また、彼を通して主がどのようにみ業を果たされたか、それによって彼がどれほど大きな祝福を受けたかを見てきました。このような経験を共にできたことは大きな喜びです。」

私は主人を『超人的な聖徒』だなどと言うつもりはありません。彼もそんなふうには呼ばれたくないでしょうし、私もそう思いたくはありません。夫はとても人間的な人なのですから。」マックスウェル姉妹はこのように話しています。

しかし「彼にとって、みたまや福音、王国に関する事柄は、ほかの何よりも大切なことなのです。」

「彼はこれまでも救い主を愛し続けてきたはずですよ。」そして彼女は、こうつけ加えるのです。「しかし、ここ数年、彼は救い主に対する愛と関心と感謝の念を特に深めたように思います。」

十二使徒に召された後の最初の大会説教で、マックスウェル長老は救い主に対する力強い証を述べました。

「主はその属性と、知識と、偉業と、経験において、まさに比類なきお方であります。にもかかわらず、主は私たちを『友』と呼んでくださっています。(ヨハネ15:15参照)

私たちは無条件で主を信頼し、礼拝し、敬愛することができます。この地上に生を受けた者の内、主以外に完全なお方はいらっしゃいません。(イザヤ46:9参照)

……私はへりくだって、主が遣わされるところであれば、どこへでも参ることをお約束します。そして主のみむねのままにみ言葉を語れるように努力します。主の特別な証人として完全にその責任を果たすには、私自身の生活を特別で完全なものにしなければなりません。」(『ああ、聖なる贖い主』「聖徒の道」1982年4月号, pp. 11, 15)

ニール・A・マックスウェル長老の召しと能力に、特別な気持ちを感じている人は少なくありません。

人々に福音の光をもたらし、彼らの生活を照らしてより一層の奉仕ができるように助けながら、ニール・A・マックスウェル長老自身がその光に照らされ、変えられてきたことはまぎれもない事実なのです。□

サ

タンはその悪計をもって夫婦の絆を引き裂こうとしますが、信仰と無私の精神をもってすれば、アダムとイヴのように永遠の関係を再び築きあげることができます。



結婚 について 思うこと

七十人第一定員会会員
セオドア・M・バートン

私の個人的な見解によれば、古今を通じての偉大な愛の物語のひとつでありながら、そのような評価を受けていないものがあります。その証拠に、皆さんがそれを読んだとしても、これが愛の物語であることに気づく人はやはり少ないのではないのでしょうか。

それはアダムとイヴの物語です。

地上に置かれたアダムは、神の形に似せて創造された完全な肉体と精神の持ち主でした。しかし、アダムには基本的な弱点がひとつありました。自分がどこから来たのかまったく記憶がなく、地上に来る前のことは何ひとつ覚えていなかったのです。彼はもう一度すべてのことを学び直す必要がありました。

アダムを創造した後、御父は御子にこのように言われました。「人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。」(創世2:18)

こうしてイヴが創造され、アダムの伴侶、妻となりました。この時点では死はまだこの世になく、ふたりの結婚関係は永遠のものでした。

偉大な愛の物語

妻として自分に結び固められたすばらしい伴侶イヴを見たとき、アダムの心は彼女に対する愛で満たされました。それは(象徴的な意味で)彼女がアダムの心臓近くの骨からとられた者だからでした。アダムは言っています。「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取ったものだから、これを女と名づけよう。」(創世2:23)このような結婚関係について、救い主は次のように言われました。「彼らはもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない。」(マ



タイ19:6)

教会の指導者が結婚、特に神殿結婚や結び固めに関して憂慮していることのひとつは、軽率な気持ちでこの聖なる永遠の状態に入る会員がいるということです。世間一般に行なわれている結婚式と同じような気持ちで神殿結婚をする人があまりにも多いように見受けられます。神殿結婚は、神から与えられた特別な神権の権能によって執行されます。したがって、これは慎重に考慮すべき神聖な儀式なのです。神殿結婚とはすなわち、永遠の結婚を意味するのです。

愛と憎しみの違い

教会員の多くは、神殿結婚に伴う誓約の神聖さを十分に理解していません。彼らはまるでこう言わんとしているかのようです。「この結婚が失敗してもまた次があるさ。相手にあきたら結び固めを解いてもらって、また別の人とやり直せばいい。」もし私たちがそのような態度で日の光栄の結婚に臨むとしたら、初めのうちは愛に基づいたふたりの関係も、いずれ嫌悪や、ときには憎しみにさえ取って代わるようになるでしょう。

結婚生活の中で愛はどのようにして失われていくのでし



ようか。エホバとルシフェルがとった態度と行動の相違点を見てみましょう。このふたりはまさしく愛と憎しみの典型と言えるからです。

イエスはご自分のことだけを考慮しておられませんでした。それどころか、イエスは御父の持っておられる真実の愛を理解しておられました。イエスは、ご自分の都合だけでなく、ほかの人々のことや彼らのために何ができるかを考慮しておられたのです。また、イエスは、御父の救いの計画が人類の進歩と成長のために必要であることを理解しておられました。ご自分の地上での生活を人類の救い主として捧げることを申し出られたのは、そのためでした。

一方、ルシフェルは自分のことしか頭にありませんでした。彼は、人の生活に関しては、父なる神よりも自分の方が知識があると思い込んでいたのです。ルシフェルは傲慢にも虚栄心から私たちの意志を無視して、義人となることを強制しようとしました。憎しみは利己心から生まれます。例にもれず、サタンの利己心は憎しみへと変わっていきました。

福音に対する信仰

この利己的な計画は言わばサタンの福音であって、今日ルシフェルは大勢の人々をその中に巻き込んでいます。この教えを受け入れる人々には、そのわなも落とし穴も見えないのです。これは人々を傷つけ、墮落させ、汚し、醜くしてしまう正反対の福音です。結婚生活に忍び込んでくれば、口論、意見の不一致、悪意などによって家庭が崩壊へと追いやられる基となります。

「信じなさい。」イエスは簡潔にこう言われました。福音を信じるかどうかによって、美しいものと醜いもの、愛と憎しみ、永遠の喜びと悲しみという違いが生じるのです。信じるという単純な行為が、求婚期間や結婚生活にどんなに大きな違いをもたらすことでしょう。

神殿結婚の大切さを理解しようと思うのなら、まず私たちは、自分が神の子であり、神が実在のお方であって今も生きておられることを、心から信じなければなりません。これはどうしても必要なことなのです。

次いで、私たちはイエス・キリストが油注がれた救い主

であることに心を留めなければなりません。イエスは人に対する深い愛から、私たちが悔い改め、自らを聖めることを条件に、罪の贖いのためにご自分の命を捧げてくださったのです。イエスの生涯はまさに献身の生涯でした。

このような生活態度こそ、求婚期間や結婚生活の土台となるべきものです。結婚生活におけるキリストへの真の愛とは、伴侶に対し自己を捨てて仕えることにほかなりません。

結婚生活における大切な質問

さらに、天父は私たちに思慮深くあるように望んでおられます。永遠の伴侶を選ぶときには、普通にわかる範囲でさえ相手のことを理解しないうちから、性急に重大な誓約を交わすべきではありません。知り合っていない人との結婚は、多くの場合賢明なこととは言えません。自分の信仰もそうですが、まず最初に相手の信仰を確認する必要があります。相手は正直な人でしょうか。約束を必ず守ってくれる人でしょうか。言葉を換えて言うなら、信頼の置ける人でしょうか。結婚に際してこうした質問に答えるのは大切なことです。なぜなら、信頼されることは愛されること以上に重要だからです。

また、相手の経歴や家族のことも知る必要があります。その人がどんな習慣や理想を持っているのか、これまでにどんな経験をしてきたのかといった事柄にも、心を向ける必要があるでしょう。その人の育ってきた環境についても心得ておくことが必要です。

結婚によって相手を変えるつもりで、たとえば正直や知恵の言葉の戒めを守るという面で問題のある人と結ばれても、決して良い結果は得られません。悔い改めが必要な場合には、結婚してからではなく、結婚前に悔い改める必要があるのです。しかも、結婚後に再び悪い習慣の芽が出ることはないように、悔い改めは完全なものでなければなりません。

さらには虐待の問題があります。これは本人の子供時代の体験に根差していることが多くあります。暴力を受けて育った子供が結婚すると、主の癒しの力によって新しい道を見いだしていない限り、自分の子供にも同じような虐待を加える傾向があります。ほかのいろいろな形での虐待に



ついても、同じことが言えます。近親相姦そうかんに悩まされてきた子供たちは、結婚するとやはり同じような行動へ走る場合が多いのです。

結婚という冒険に備える

結婚生活を不幸に陥れるもうひとつの原因に、未熟さがあります。低年齢で結婚する場合は、結婚生活がもたらす重荷に耐えられるだけの肉体的、精神的、経済的な備えがなかなかできません。ましてや子供ができれば、親としての義務と責任が重くのしかかってきます。こうした重圧に直面して初めて、若い夫婦は愛の告白も外見の魅力もロマンチックな気分も、生活に必要な収入や食物、非常時の資金を生みだしてはくれないことを悟るのです。

結婚という冒険によく備えができていれば、それは輝かしいすばらしい経験になるでしょう。反対に、未熟で十分な備えができていなければ、結婚は悲劇になりかねないのです。

破綻はたんした結婚生活の足跡を調べていてわかったことは、離婚はほとんど結婚問題の解決にならないということです。家庭崩壊からくる胸が張り裂けるような悲しみは、現代社会がもたらした最大の悲劇のひとつです。離婚が子供たちに与える精神的な痛みは計り知れません。両親が離婚した家庭の子供は反抗的であることが多く、幸福を知らないまま大人になっていきます。そうした子供たちが結婚の時期を迎えても、両親の結婚生活で見てきた口論や苦痛、様々な問題などが記憶に残っていて、幸福な結婚生活への障害となる場合がよくあるのです。

どちらの側にも勝ち負けはない

離婚はほかにも問題を引き起こします。子供の養育に關する金銭面の問題は、思うように解決しないのが常です。そのため、離婚した妻たちは子供の養育につまずき、やがて怒りと悲嘆に暮れるのです。離婚に関しては、勝ちも負けありません。離婚が結婚問題の解決に役立つことは、ほとんどないのです。

結婚カウンセラーにとって最もむずかしい仕事は、ほとんどの場合、夫と妻がふたりの間にある憎しみや恨みを克

服できるように、道を見いだす助けをすることです。悔い改めと赦しゆるがあれば、大抵の問題は解決することができます。憤りは悲劇的な行動へ人を駆り立てるだけです。

人を赦すことができるようになりさえすれば、どんなにすばらしいことでしょう。私はよく教義と聖約第64章9節を引き合いに出します。「この故ゆえにわれ汝なんじらに告ぐ、汝ら互いに赦し合うべきなり。そは、人その兄弟の過ちを赦さざれば、その人主の前に罪に値する故にして、そは更さらに大いなる罪なお彼に在ればなり。」

私たちは、互いに親切を尽くすように教えられたイエスの愛に、心を向けなければなりません。イエスは次のように言われました。「もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。

もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」(マタイ6:14-15)

親切によって愛を取り戻す

私たちは、いつになったら愛が憎しみを克服し、親切や謙虚さが愛を取り戻させてくれることを悟るのでしょうか。

自分に落ち度がないのに結婚相手に恵まれにくい人、死や離婚、蒸発などで伴侶を失った人々に、いくつかの助言をしたいと思います。絶望してはなりません。何もかも失ったなどと悲嘆に暮れてはなりません。皆さんは神の子なのです。天父を信頼してください。死後のことで頭を悩ませてはなりません。自分の伴侶がだれになるのか、誓約の子はだれのところに行くのかと、煩う必要はありません。ときには現在の問題がきわめてむずかしいものであっても、死によって解決が阻まれることはないのです。

この世にある間は、できる限りキリストに近い生活をするに關心に向けてください。こうして耐え忍んで愛と赦しの生活を続けていくなれば、この世でアダムとイヴによって始められたあの偉大な愛の物語は、私たち自身の物語ともなるのです。□

(この話はユタ州プロボのプリガム・ヤング大学における講演を編集し直したものです)



「兄弟の頭に手を置いたとき、私は非常にはっきりと、彼があの大いなる天上の戦いで偉大な霊のひとりとして戦ったという、みたまのささやきを聞いたのです。」

カルロス・ディ・アンジェロ——「努力すれ

「神」の試しを受けていると言えるのは、従順になろうと懸命に努力している人たちです。私たちがいわゆる『試練』と呼んでいるものの多くは、単に自分自身の誤った行ないの結果であったり、戒めを破った結果なのです。」

大勢の人垣のそばを通りかかってこのような言葉を耳にすれば、だれでも思わずその話し手に目が引きつけられるでしょう。それがほかならぬカルロス・ディ・アンジェロ兄弟なのです。その証拠に、彼はもともと控え目な方なのですが、アルゼンチンのマルデルプラタステーキ部の集会や指導者会で、友人や会員たちに取り囲まれることがたびたびあります。

32歳という若さにもかかわらず、彼は多くの人が見習いたいと思うような徳を身につけ、とりわけイエス・キリストの福音に対する強い証をもって、人々を魅了しています。

カルロス・ディ・アンジェロ兄弟は、全盲でありながら努力の末にこのような証を得たのです。彼は緑内障という眼病をもって生まれ、10歳のときに完全に視力を失いました。「私の場合は、盲人であるということを受んり受け入れられた方だと思います。しかし、障害のある子供が人に遅れを取ることがないように子供に何を望み、本人の成長を促すために何をするかといった、家族の態度もきわめて大切です。」

カルロス兄弟の両親はどちらも聾啞者ろうあ者でしたので、おば



ヘクター・H・ペルゾッチー

「必ず祝福があると確信しています」

が彼を医者に連れていってくれました。「おばの方が、父や母より説明がうまかったからです。」カルロス兄弟はそう語ります。「おばは、私が盲人のための全寮制の特殊学校に入るためにプエノスアイレスへ行ったときにも、助けてくれました。」

しかし、カルロス兄弟にとってこの寄宿学校での経験はつらいものでした。これまでの家庭という環境から不慣れた施設に身を移すことになって、彼は大変苦しみました。そこには手で触れるものも耳で聞くものも、何ひとつ親しんだものがありません。彼はついに環境の変化に順応できないまま、翌年、家に戻ったのです。

カルロス兄弟はそれでも勉強を続ける夢は捨てませんで

した。彼はこう述べています。「自分の周囲で生じていることや遠くで起きている事柄を知り、理解しなくてはという気持ちは、どんな障害をも克服する力になります。」

カルロス兄弟は学校を卒業するとすぐ職に就きました。最初はクレジット会社での手紙の発送、次は広告代理店の配達人、それから陶器工場での型取りの仕事と、彼はいろいろな職種で働きました。こうして得た収入で、ラジオなどいくつかの小物をそろえました。そして、両親が建てた家に湯沸かし器を取りつけることまでできたのです。「湯沸かし器のために貯金を全部使い果たしました。」彼は当時をこう思い返しています。それはカルロス兄弟にとって少なからず意義深い経験でした。「私のような者でも人のために



役に立つことができました。家族にお湯を使わせることができたのです。このときから、私にも人並みのことができるんだという自信と誇りが芽生えてきました。」

こうした気持ちがいろいろな面でさらに良い結果を生みました。この新たにわきあがった自信に促されて、彼は中断していた学問をもう一度続ける気になりました。また、おじやおばの援助を得て、街の通りに自分の店を持ち、そこでクッキーやキャンディー、たばこなどを売りました。

この時期のカルロス兄弟の生活は、いわゆるその日暮らしてでした。「将来のことはあまり考えていませんでした。とにかく働いて、店を持ち、それを大きくしていくことしか頭になかったのです。ほかには、もしかすればガールフレンドを持てるかなといったことぐらいで、それ以外には何も考えていませんでした。」

そんなある日の午後、ベドロ・ルロ通りの自分の店のラジオから流れてきた言葉が、カルロス兄弟の心をとらえたのです。「ラジオからは地域大会や長老、メルケゼデクなどという、聞き慣れない妙な言葉が聞こえてきました。特に注意をひかれたのは、予言者という言葉でした。」

数カ月後、ディ・アンジェロ家の隣に、ベトツィー一家が越してきました。ベトツィー一家の娘たちは、カルロス兄弟や彼の弟と仲良くなりました。ある日、カルロス兄弟の弟がこう言ったのです。「カルロス、ベトツィー家がモルモンだってこと、知ってた？」ロザーナとファビアーナがカルロス兄弟の店に立ち寄ったとき、彼はこう尋ねました。「ところで、モルモンって何だい？」

ロザーナは、カルロス兄弟に福音について説明しました。「父なる神とイエス・キリストが別個のお方であるということを彼女から聞いたとき、何か以前から知っていたことを確認するような、特別な気持ちを感じました。」こうカルロス兄弟は笑いながら話します。「それから私は彼女にこう尋ねたのです。『教会に行ってもっと詳しく勉強してもいいかい？』」

1979年初頭のある日曜日、彼は初めて地元のワード部を訪れました。聖餐会は伝道をテーマにプログラムを組んでいました。ひとりの兄弟がジョセフ・スミスの見神について、またほかの兄弟が家庭生活について話してくれました。

「自分の思っていたこととは随分違っていました。私はその教えが好きになりました。」カルロス兄弟はこう語っています。

その最初の訪問以来、カルロス・ディ・アンジェロ兄弟はモノリットワード部に休まず集うようになりました。それから何週間かの後、カルロス兄弟は初めての証会に出席しました。彼はまだ宣教師から家庭集会を受けてはいませんが、自分の中で大きくなりつつある新たな気持ちを人々に伝えるよう靈感を受けたのです。「自分はまだ教会員ではないが、教会に来てとても良い気持ちを感じていること、皆に受け入れてもらい感謝していることを会員たちに伝えました。そして、今まで聞いたことは真実に違くないと言いました。」

翌週、彼はワード部の伝道主任ダニエル・ロドリゲスから最初のレッスンを受けた。そして、最後のレッスンを終えて1カ月後、カルロス兄弟はバプテスマを受けた。カルロス兄弟がバプテスマを受けて数カ月後に、モノリットワード部の監督に召されたダニエル・ロドリゲスは、当時のことをこんな風に話しています。「レッスンの最中に、一度カルロス兄弟の気分が悪くなったことがありました。そこで私は祝福を授けることにしました。兄弟の頭に手を置いたとき、私は非常にはっきりと、彼があの大なる天上の戦いで偉大な霊のひとりとして戦ったという、みたまのささやきを聞いたのです。私はそのことを祝福の中で述べました。」

ロドリゲス監督はさらに、カルロス兄弟をこの世にあっても特別な人であると考えています。「私はずっとそう思っていました。ですから七十人の責任にあつたときも、彼に補佐を務めてもらっていたのです。」メルケゼデク神権に昇進したカルロス兄弟は、一時短期間ですが伝道主任を務め、後には七十人に召されています。同時に、彼はワード部幹部書記としての責任も受けています。ロドリゲス監督はこう語っています。「4年間のうち2、3度集会を休んだだけで、カルロス兄弟は実に献身的に働いてくれました。しかもその2、3度というのは、病気で来られなかったのです。」点字の機械を使って、カルロス兄弟は自分の責任を完璧にこなしています。ロドリゲス監督によれば「彼は何でも記録し、ファイルしておくのです。」

教会に入って数年後、カルロス兄弟は優秀な成績で中等教育を終えました。その後何人かの教会員の仲介で、短期間ラブラータ市で盲人担当の図書館員として勤めました。現在、彼は生涯の夢である大学の歴史の先生になるために、

勉学にいそんでいます。

以前ロドリゲス監督の副監督だったロベルト・ディ・フラビアが、カルロス兄弟の勉強を助けています。彼と妻のメイベルは、よくカルロス兄弟と会って、テキストを読んであげます。カルロス兄弟は驚くほど簡単にそれを暗記してしまうのです。またひと月に数回、カルロス兄弟が家で勉強できるようフラビア夫妻は学科をカセットに吹き込んでいます。

1986年3月29日、カルロス兄弟はブエノスアイレス神殿で、自分自身のエンダウメントを受けました。彼をよく知る人々は、カルロス兄弟の天性の努力家としての資質が日増しに磨かれ、開花していくのに気づいています。

絶えず努力するというカルロス兄弟の決意は、機会あるごとに人々と分かち合う彼のすばらしい証から来ています。彼は次のように話しています。「七十人の召しとともに、私には大きな責任が与えられました。私はイエス・キリストの特別な証し人として、常にキリストを証ししなければなりません。そうするためには、救い主との間によい状態を保っていかなければなりません。つまり、救い主をもっとよく知り、教えに添った生活をするよう努力しなければならないのです。正しいことをするように心がけ、戒めに従えば祝福されます。これは確かです。なぜなら、私たちを愛してくださっている神は、私たちに達成する力や能力を与えてくださっているからです。私たちに求められているのは、努力なのです。」

こうして努力家のカルロス兄弟の行ないは、大勢の人々にとってすばらしい模範になっています。ディ・フラビアが語っているように、「カルロス兄弟は、会話や話の中でよく話題になる理屈のうえだけの模範者ではありません。彼は私たちにとって、この生涯でだれもが望んでいること、つまり天父との昇栄を目指して自分たちも負けまいと奮い立たせてくれる生きた模範」なのです。

アルゼンチンのマルデルプラタステキ部で、カルロス・ディ・アンジェロ兄弟の熱意を知る人々は、あと2、3年で学校を終える彼が、大学の歴史の先生になる日を心待ちにしています。しかしそうなるまでに、彼はまず盲人が教師になる道を阻んでいる現在の法律と戦わなければなりません。彼は勉強を始めた最初からこの事実を知っていて、あえて挑んだのです。実のところ、アンジェロ兄弟はすでにアルゼンチンの大統領にその許可を願って、手紙を出しているのです。□

独身者 に关心を寄せる 既婚者 への助言

既婚者であろうと独身者であろうと
聖徒は共に手を取り合い、
すべての人が教会活動の祝福にあずかれるように
援助できるのです。

キャサリン・リューベック

ジ ヨージ・メルリ兄弟は、まさか自分がその境遇に置かれるとは夢にも思っていませんでした。彼はステーク部長、伝道部長、地区代表という責任にあったとき、同じような境遇に置かれたほかの人々と接したことはありませんでしたが、今それが自分の身に起きたのです。まさに晴天のへきれきでした。

結婚38年にして、メルリ兄弟は再び独身になりました。つまり、妻に先立たれたのです。

「連れ合いに先立たれるということがどんなものか、経験のない人にはなかなか理解できないでしょう。」彼はこう語っています。「あまり考えたくないことですが、結婚すれば伴侶が突然亡くなって独身に戻ることだって、あり得るのです。そうなったときのことを考えてみれば、独身者の生活がもっとよく理解できると思います。」妻と死別して3年たった現在、メルリ兄弟は再婚しています。

独身者の増加

メルリ兄弟のような例はめずらしくありません。教会においても、特に女性の間で、独身者の数が増えています。既婚会員全体の約3分の1は、60歳までに離婚か伴侶との死別によって独身生活に戻ると言えます。地域によっては、独身者の占める割合はさらに高くなっています。

「ひと昔前は結婚を希望する教会員はだれでもそれができると、考えられていました。しかし現実には末日聖徒の独身者は、徐々に増えてきています。」ユタ州プロボのブリガム・ヤング大学社会学助教授のマリー・コーンウォール姉妹はこのように話しています。

教会員の構成を示す統計の上にも変化が表われています。会員の離婚件数の増加に伴い、片親だけの家庭が増えてきています。また、独身者は男性よりも女性の方が多くなっています。したがって、相当数の活発な末日聖徒の女性にとり、

末日聖徒の男性との結婚はむずかしくなりつつあるのです。教会員の数が少ない地域ではなおさらでしょう。つまり、姉妹たちの多くは、結婚をしないか、それとも教会員以外の人と結婚するか、どちらかの選択を迫られていると言えます。教会の30歳以上の活発な独身女性100人に対して、活発な独身男性は19人というのが現状なのです。

こうした教会内の多数の独身者を伝統に固執するワード部や支部になじませることは、むずかしい場合が多いのです。彼らには、ほかの人々への奉仕の機会も必要ですが、ワード部や支部の一員として受け入れられているという気持ちを持たせることがきわめて大切です。

帰属感

「独身会員にとって帰属感を得るための第一歩は自分から努力することです」とジョレイン・ウィルソン姉妹は言っ

既婚者



独身者



共に手を取り合って



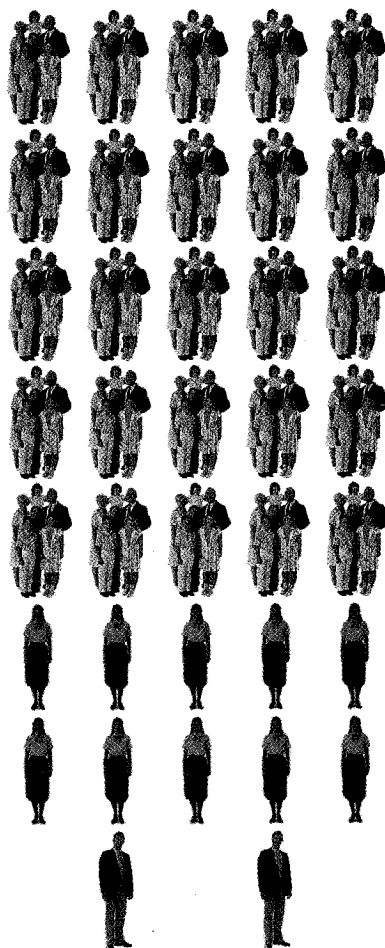
います。「新しいワード部に転入したとき、私は越して来たその週に監督に会おうと決心していました。監督との話の中で、私はワード部の一員としてすぐに働く用意があることを伝えたのです。間もなく、訪問教師主任の責任を受けました。この責任を通して、私はたくさんの人と知り合うことができました。そして、一員であるという自覚を持たたそのワード部が、大好きになったのです。ワード部の会員たちからはすぐに歓迎の気持ちが伝わってきましたし、みんなが私をワード部の会員として大切に扱ってくれました。」

以前独身ワード部の会員であったエリザベス・ショー・スミス姉妹は最近結婚したばかりですが、同じような経験をしています。「こちらから親しみをもって接していけば、みんなが親しくしてくれます。責任を受けていつでも働けるように状態を整えて教会に行き、殻に閉じこもらずに人々に話かけていけば、みんなも自然に受け入れてくれますし、こたえてもくれます。」

では独身会員に、受け入れられている、という気持ちを持ってもらうには、どうすればよいでしょうか。既婚者の場合もそうですが、一人一人の必要は異なるわけですから、どの独身者にも通用する同じ接し方を論じることはできません。しかし、少なくとも、独身者の住む場所に関係なく、愛され、認められ、大切に思われている、という気持ちを彼らに持たせることはできるのです。では、次にいくつかの提案を試みたいと思います。

1. 友人として、大人として、独身者に対等に接する

友情に、年齢や国籍、既婚者であるかどうかは問題ではありません。福音の中で働きを共にする人々は、友情を深め、



共通の関心を^{はくく}育んでいくすばらしい機会を手にしています。

しかし、時折、なにげない態度によってそれをむずかしくしてしまうことがあります。例をあげてみましょう。「一般的な意味で独身男性は、あまりいい見方をされないときがあります。」こう話すのは独身会員のラルフ・フィンリソン兄弟です。「独身だからというだけで、何か欠点でもあるように思っている人がいます。そういう見方は独身者を傷つけると思っています。男性も含めて、ほとんどの独身者はすばらしい結婚を望んでいるので

すから。」

「離婚と同時にワード部の召しを解任された、5人の子供を持つ男性がいました。」こう語るのはメルル兄弟です。「その男性は、教会で皆に拒絶されたと感じて、自分の隣に座ってくれる人さえ、ひとりもないのではないかと思込んでしまったのです。」

2. 独身者に教会の召しを受けてもらう

「資格あるふさわしい独身会員にやりがいのある召しに就いてもらうことは大切です。彼らには意義ある貢献をするためのチャンスが必要だと思います。」メルル兄弟はこう言っています。

スミス姉妹もこう語ります。「私のステーキ部では副監督と高等評議員に何人かの独身者が召されています。また、補助組織の会長にも独身女性が何人か召されています。私たちのステーキ部の神権指導者は、これまでの経験から独身者を有能で貴重な人材と見ているのです。」

3. 成人会員の中に未婚の人が多くいることを心に留めておく

時折、独身者たちが見過ごしにされて、ワード部や定員会のパーティー、神殿の団体参入、そのほかの活動に招待されないことがあります。また、たとえ招待されても、独身者たちは自分から参加するのをためらうことがあります。

「ワード部で長老定員会や大祭司のパーティーがあるときには、その年齢に達している独身者を必ず招くようにすべきです。あなたやあなたの奥さんと一緒に参加するように勧めることが大切です。ひとりで行くのをためらったり、その活動を既婚者だけのものだと思込んでしまう独身者がいるからです。」メルル兄弟はこう話しています。

メルル兄弟は、独身者の必要が既婚者

のそれとは幾分異なることを指摘しています。「私たちは、独身者がほかの独身者と有意義な方法で出会える機会を提供しなければなりません。大会やファイヤサイド、社交活動などもよいでしょう。しかし、何と云っても彼らは、既婚者と同様に、周囲の人と一緒に奉仕する機会を必要としているのです。」

4. 独身者をワード部やステーク部の活動に参加させる

「私たちの教会は家族を中心とした教会であり、当然そうでなければならぬのですが、ときとして、私たちは無意識に独身者を押しつけてしまうような言動をとっていることがあります。」メリル兄弟はこう話しています。

ワード部によっては、聖餐会で既婚者だけが祈りの責任を受けているところもあれば、バレーボールの練習を「成人」と「独身」とに分けて発表しているところもあります。また、定員会や扶助協会の教師が、既婚者だけを対象にレッスンをしているところもあります。

40歳近いある独身女性は、神殿推薦状を受けるためのステーク部長会との面接を、ひどくいやがっていました。それは、いつもこう尋ねられるからでした。「あなたほどのすばらしい女性が、どうしてまだ結婚しないんですか。」そして、代わり映えのしない自分の社会生活について根掘り葉掘り聞かれるのです。それは彼女にとって、とてもつらいことでした。彼女も結婚を望んでいるのです。ただ、これまでの生活でそういう機会に恵まれなかっただけなのです。

「子供に恵まれない夫婦が、子供のいない理由をあれこれせんさくしない人々の思いやりに感謝するように、独身者も、ひとりであることの理由をせんさくしない人々の心遣いに感謝していると思いま



す。」マリー・コーンウォール姉妹はこのように話しています。

5. 独身者の特別な必要に気を配る

「独身者には、一般の夫婦に対するよりも、ずっと多くの注意を向けなければなりません。彼らの多くは、だれも待つ人のいない家に帰るのです。一緒に何かをしたり、話したりする人が必要かもしれません。」メリル兄弟は、独身者をこのように見えています。

独身者には、特に思いやりの深い訪問教師やホームティーチャーを割り当てる

必要があります。たとえば、母子家庭の場合、十代の子供がいればスポーツ行事や社交活動に招いたりして、父親のような役割を積極的に果たしてくれるホームティーチャーがよいかもしれません。また、子供を抱えて生活している父親だけの家庭には、彼らだけでは処理しきれない問題について助けを必要としているかもしれません。逆に、子供と離れて暮らしている人々は、言いようのない寂しさを味わっているかもしれないのです。

既婚者の中には、独身の人たちはあまりすることがなくて気ままな生活を送っている、と思っている人たちがいるとコーンウォール姉妹は指摘しています。しかし、実際はそうではありません。「日常生活のこまごまとした仕事と一緒に取り組む相手がいませんから、収入の道を守ると同時に、何でも自分ひとりでやらなければなりません。これがまた、大変なことなのです。子供がいれば、なおさらです。」

会員が周囲の人々の必要によく気づくワード部であれば、既婚者にとっても独身者にとっても大きな力となるでしょう。怒るに遅く、思いやりと協力の精神、また意志の疎通があるところでは、成功が生まれます。独身者用の福音、既婚者用の福音などというものはありません。皆と一緒に王国建設のために働くのです。神を愛し互いに愛し合うこと、これこそが永遠の進歩の基本なのです。□

*独身のキャサリン・リューバック姉妹は、教会広報部の特集記事担当主幹を務める傍ら、若い女性の中央管理会会員でもある。ソルトレーク・グレンジャーステーク部グレンジャー第18ワード部所属。



イエス・キリスト



質疑応答

本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

イエスとルシフェルは、性格も目指す目的も互いにまったく反対でありながら、どうして霊の兄弟と言えるのでしょうか。



ジェス・クリステンセン

ユタ州ローガン, ユタ州立大学
インスティテュート部長

ルシフェルと私たちの主イエス・キリストが兄弟であるという教義を初めて耳にすると、驚く人が多いのではないのでしょうか。末日の啓示を読んだことのない人であればなおさらです。しかし、聖典も予言者たちとともに、イエス・キリストとルシフェルはまぎれもなく天父の子供であり、霊の兄弟であることを宣言しています。イエス・キリストは初めから御父と共にいました。ルシフェルもまた「神の御前に於て権威ありし神の一天使」であり、「黎明の子」でした。(教義と聖約76:25-27; イザヤ14:12参照) イエスとルシフェルはふたりとも深い知識と大きな影響力を持った力ある指導者だったのです。しかし、御父の長子であったイエスは、ルシフェルの兄でした。(教義と聖約93:21参照)

このようなふたりの偉大な霊があれば異なってしまうのはなぜでしょうか。自由意志の原則にその答えがあります。この原則は永遠から永遠にわたって存在しています。(教義と聖約93:30参照) 聖典には、ルシフェルは謀反を起こしたために「サタンと成れり、実にあらゆる偽りの父なる悪魔」(モーセ4:4)になった、と記されています。ここで大切なのは、彼は悪魔として創造されたのではなく、自らの選りによってサタンになったという点です。

(兄弟同士がきわめて異なった選択をするのは珍しくあ

りません。これまでも幾度かそのような例がありました。まず、カインはサタンに仕えることを選び、アベルは神に仕えることを選びました。[モーセ5:16-18] エサウは「長子の特権を軽んじ」、ヤコブはそれを尊びました。[創世25:29-34] ヨセフの兄弟たちは彼を殺そうとしましたが、ヨセフ自身は彼らを救おうとしたのです。[創世37:12-24; 45:3-11])

皮肉にも、ルシフェルが人々から取りあげようとしたのは、自分が謀反を起こすときに使った自由意志でした。彼の提案は、全人類を強制的に神のみ前に連れ戻すというものでした。(モーセ4:1, 3参照) しかし、自由意志の原則は、人間が存在し、進歩するには欠かせない基本的なものです。選択の力を賢明に行使すれば、私たちはより大きな光と真理を受けられるのです。反対に、サタンがしたような悪い選択をすれば、進歩は止まり、すでに受けている祝福まで失ってしまいます。(教義と聖約93:30-36参照)

したがって、私たちが成長するには善悪を選ぶ機会が必要なのです。自由意志に反対したサタンとその軍勢が、善や義と対立する存在になったことは興味深い点です。

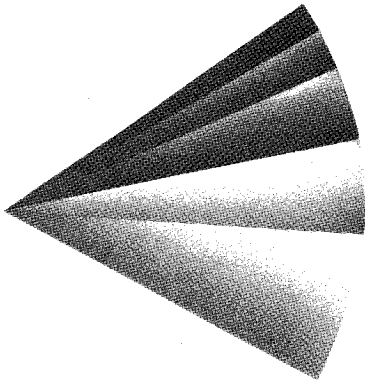
御父は、サタンとその軍勢が人類を誘惑するままにしておられますが、私たちは御父から誘惑に立ち向かう力を授かっています。(I コリント10:13参照) そのうえ御父は、贖いというすばらしい賜まで、私たちに与えてくださっています。

主がイヴの子孫と悪魔との間に恨みを置かれたとき、「彼(イヴの子孫)は汝の頭を打ち砕き、汝は彼のかかとをかみ砕く」(モーセ4:21)とサタンは主から言われました。これはすなわち、サタンが人々を扇動し、主をはりつけにすることによって、救い主のかかとをかみ砕く、ということです。しかし、キリストは、死と復活により全人類のために死を克服されました。また、贖いを通して私たち一人一人に、罪の永遠の結果から逃れ、天父のみもとに帰る方法を示してくださっています。このようにしてサタンの計画はくつがえされ、やがて彼は裁かれ、縛られて永遠に地獄に投げ入れられるのです。(教義と聖約29:26-29; 黙示20:1-10参照)

ご自分の愛する息子が謀反を起こし、そのリーダーとなり、昇栄する機会を失っていくのをごらんになった天父の悲しみは、想像する以外にありません。しかし、同時にまた、命の戦いに雄々しく敢然と立ち向かい、ご自分の苦痛と死を通して大いなる贖いをもたらした愛する息子を迎えたときの御父の愛と喜びも伝わってくるのです。□

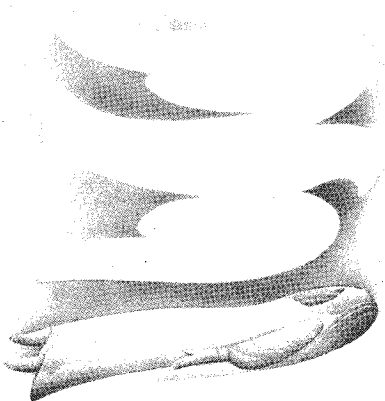
ルシフェル

名言抄



小さな思いがときには重大な結果を引き起こす

「あるとき、私は農場の大きな柵の門のところへ行っていたことがあります。その掛け金を外して門を開けました。ちょうつがい動いたかどうかわからないほど、わずかに押しただけだったのですが、反対側の端では、5メートルもあるかという大きな弧を描いて門が開き始めました。ちょうつがいの方だけを見ていると、掛け金を外すという小さな行為ひとつでどれだけ大きな動きが生じているのか想像もつかないでしょう。私たちが生活の中で下す決断についても、これと同じことが言えます。小さな思い、何気ない言葉、ちょっとした行ないが、途方もない結果を生むことがあるのです。」(ゴードン・B・ヒンクレー『信仰を守る』「エンサイン」1985年9月号、p. 3)



聖霊なくしては靈的に死んでいるのと同様

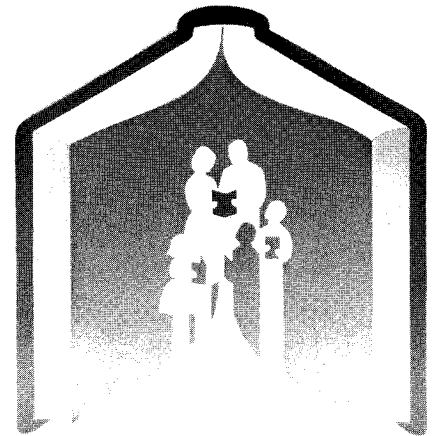
「イエス・キリストの贖いがなければ、バプテスマには意味がありません。また、バプテスマだけでも、行ないだけでも、救いを得ることはできません。バプテスマには聖霊を授ける按手が必要です。ちょうど神がアダムを創造して命の息を吹き込まれたように、私たちは聖霊を受けることによって靈的な活気を得ることができるのです。聖霊なくしては靈的に死んでいるのと同様で、永遠の御父のもとに帰る力はありません。」(セオドア・M・バートン「ブリガム・ヤング大学における礼拝説教」)



宣教師は主のみ名によって働くために遣わされる

「私は確信しています。宣教師として働いているときほど、主と親しく交わることができる機会はほかにありません。皆さんが宣教師として働くとき、主は皆さんを、ご自身のみ名によって働く者として遣わされるのです。神は聖霊の力によって皆さんに有益な経験をさせてくださることでしよう。また、人を教え、改宗に導き、神のみ名によって神聖な救いの儀式を執行する権能を授け

てください。また、神は皆さんを認め、皆さんが信頼できる人物であることを心に留められることでしよう。そして神は皆さんに様々な教訓を得させてくださいます。皆さんはこれらの教訓から、回復のメッセージを世のすべての人に伝える責任を遂行するに際し、自分の義務である重大な務めを果たす力を得ることができるのです。」(M・ラッセル・バラード『奉仕への備え』「聖徒の道」1985年7月号、p.45)



祈りの気持ちをもってモルモン経を読むならば、キリストの純粋な愛が家庭の中に満ちるであろう

「家庭にあって両親が、夫婦として、また子供を交えて家族として、共に祈りをもって定期的にモルモン経を読むようにするならば、家庭の中はこの偉大な書物からわき出る特別な力で包まれ、家族一人一人がその力強い影響を受けることでしよう。家庭の中はこれまで以上に敬虔な雰囲気(けいけん)に包まれ、一人一人が互いに尊敬し合い、関心を持つようになると思います。そして、いがみ合うようなことがまったくなくなります。また両親は愛と知恵の中で子供たちを諭すようになり、子供たちは以前にも増して両親の勧めに快く従うようになります。義は増し加えられ、信仰と希望、キリストの純粋な愛が家庭や日常生活に満ちて、平和と喜びと幸福がもたらされることでしよう。」(マリオン・G・ロムニー『モルモン経』「聖徒の道」1980年9月号、p. 102)

幸福を得るための知恵

ミルトレット・ハートル

永 遠の観点から見れば、私たちが自分自身や周囲の人々に対して抱くいらだちのほとんどは、この世の事柄にとらわれることから来ています。

あるクリスマスイブのことです。枯れ草が飛びかう大草原の小さな家の窓から、ひとりの若い母親が外を眺めていました。彼女は、クリスマスに何か思い出に残るような楽しい事を考えてやらないと、子供たちががっかりしてしまうのをよく承知していました。

ルカ伝の中のあの語り継がれたクリスマスの物語を子供たちに読んで聞かせながら、彼女はあることを思いつきました。子供たちをベッドに寝かしつけると、早速、行動に移りました。まず、外に吹き散らされている球状の枯れ草を集めてきて「もみの木」を作り、広告紙にあるきれいな色刷りの飾りを切り抜いて、枝に糸でつるしました。それからレースを使ってバラの形にし、「木」の先端に取り付けました。最後に、子供たちの人数分用意した皿の上にレースを少しずつ載せ、一人一人にあてて愛の言葉を記したカードを添えたのです。

この母親は、自分の境遇にとらわれてくよくよしたりはしませんでした。貧しい環境の中からも楽しい思い出をみずから作り出したのです。この若い母親が示した行動原理は、今でも変わっていません。永遠の選択をしなければならぬ私たちには、この世にあってその選択をするための時間が与えられているのです。

「最善を尽くしました」

「それは、すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬからである。……人間はもしもあれに誘われこれに誘われなければ、随意に選り行うことはできないのである。」(II コリント 2:11, 16)

試練の中にあるとき、私たちは幸福について深く考え、誇りとユーモアを失わずに日々を送るにはどうすればよいか思案します。しかし、当面求められている事柄こそが、まず行なわなければならないことであるという場合がよくあります。そうすれば、後になって当時のことを振り返ったとき、自分は最善を尽くしたと言うことができるのです。また、時の経過とともに試練の時期を誇りをもって思い返せるようになるでしょう。

私たちは試練を自分で選択することはできません。しか



し、どのような態度で試練に臨むか選ぶことができます。私が最初にこの教訓を学んだのは10歳のときでした。当時私は、毎晩夕食のためにじゃがいもの皮むきをさせられていました。私が毎日不平をもらすのを聞いていた祖母は、どうせしなければならない仕事なんだから好きになる方法を考えた方がいいよ、と私に教えてくれたのです。また、別の機会に家に来ていたおばは、私の肩に手を置いて、ほほえみながら、こう助言してくれました。「いつまでもこれが続く訳じゃないのよ。」長年の間、楽しくもない退屈な仕事をしなければならないときに、この知恵が役立ってきました。

成長の余地があることを認める

私たちは人生のチャレンジに立ち向かうときに、しばしば自分自身に対して否定的な考え方をしてしまうことがあります。否定的な感情が増長すると、私たちは自分を才能も能力もない哀れな存在と見るようになってしまいます。私たちは絶えず問題を抱えて生きる存在であることを認識する必要があります。したがって、成長の過程で自分自身に対する忍耐力を身につけ、生活の中で遭遇するチャレンジ

に対処する仕方を学んでいかなければなりません。

貧困や病は人生につきものです。しかし、問題にばかり頭を悩ませていては、成長が阻害され、必要以上のつまづきを生じてしまいます。絶えず完璧な生活だけを実現しようと考えていると、それを実行に移すための時間や労力までも失ってしまいます。

建設的な面を探す

私の娘はある時期、幸福を感じることができないと悩んだことがありました。彼女は大学に入れば幸福になれると思い、普通の生徒よりも早く高校を卒業しました。しかし、大学生生活は彼女の期待にこたえてはくれませんでした。次いで彼女は、きっと幸福になれると信じて伝道に出ました。しかしそこでも、伝道にありがちなむずかしい問題に対処できない自分に苦しみました。

伝道中のある晩、娘は日記にひとつの決心をしたためました。それはどのような体験をしてもその建設的な面を見るようにし、ユーモアのセンスをもって日々の生活を送ろう、というものでした。その結果彼女は、幸福はみずから作り出すものであり、外から与えられるものではないことを知って、思いもかけぬ深い喜びを味わったのです。あれから12年たって5人の子供の母親となった彼女は、今なおその原則を実践しています。

過去を振り返らない

言うまでもなく、試しの生涯である現世で理想どおりの生活を送っている人は、だれもいません。それでもなお、私たちは過去にとらわれず、日々を目標達成のための新たな機会として見る必要があります。

たとえば、私の場合は母親のいない家庭で育ちました。家の中では、怒鳴られ、暴力を振るわれ、性的な虐待まで受けました。教会へは通っていましたが、家庭の中にはお互いの思いやりなどまったく見られませんでした。結婚してからは5年間子供に恵まれませんでした。その後やっとひとり子供をもうけることができました。大家族を夢んでいた私たち夫婦は、その後6人の子供を養子に迎えました。子供たちが成長すると、ほどなくして夫は病に倒れ、亡くなってしまいました。一般の教会員であれば、ちょうどふたりで伝道に出て楽しい老後を送ることを考え始める時期だったのです。

もし過去のつらい思い出にばかり心を奪われていたら、私の人生はまったく悲惨なものになってしまったでしょう。しかし、私はずっと以前に、自分がどんな状況に置かれても主に仕えたと固く決心しました。それ以来、苦難に見舞われたときには、自分の思いが昇栄に役立つものかどうか考えるようになりました。これは、祈りとともに私が人生の暗い面を直視し、克服するうえで大きな力となったので

す。

「完全な光」

私にとってIIネーファイ31:20は、日々の生活を送るために必要な希望を与えてくれます。「それであるから、あなたたちはこれからもキリストを確^{かた}く信じて疑わず、完全な希望の光を抱き、神とすべての人とを愛して強く進まなければならない。それであるから、この後もたえずキリストの言葉をよく味わいながら強く進み、終りまで堪え忍ぶならば『永遠の生命を受ける』、かくの如く天の御父が言いたもうた。」

たとえ自分が弱くなったときでも、み言葉を味わいながら終りまで堪え忍ぶというこの目標は、努力を続けていくだけの価値を持つものです。誇りとユーモアのセンスを持っていれば、どんな障害をも克服し、勝利を手にすることができます。永遠の観点から見れば、私たちが自分自身やほかの人々に対して抱くいらだちは、ほんのささいなことが原因になっている場合が多いものです。

健全なユーモアのセンスを発揮することで、昇栄を目指して努める神の子として自分の霊性を考えることができるようになります。私は人生への取り組みがまじめ過ぎたために、この点を理解するのに多くの年月を要しました。

我が家で初めて山にキャンプに行ったときの出来事は、いらだちをユーモアの中で解消することを学ぶよい機会となりました。夜の冷気がテントの中に忍び込んでくるころ、私たちは用意してきたありとあらゆるセーターやコートを着込んで、寝袋に入り、家族で寄り添って暖め合いました。ほかのテントでもそれぞれの家族が夜の寒さに備えている気配がします。こうしてようやくキャンプ場一帯が寝静まったころ、小さく寄り添うようにしていた我が家のテントから静寂を破って4歳の子供が大声をあげました。「ママ、うごけないよ。」するとそこらじゅうのテントの中からくすくす笑う声が聞こえてきました。その無邪気でユーモラスな有様に、私たちはかえって心温まる思いがしたのでした。

試練に遭って生きる意欲を失いかけているときは、友人や家族との温かい交わりが励みとなります。ユーモアを忘れないようにしましょう。そうすればどんなに暗い夜にも明かりをともすことができます。冬の夕べに丸くなった枯れ草が飛びかっているときには、それを利用して楽しい思い出を作り出してください。悲しみではなく喜びを追い求め、幸福への道を歩もうではありませんか。□

*ミルドレッド・バートル：フリーランスライター。アイオワ州シダーラピッズステーク部マウントバーノン支部に所属し、扶助協会教師およびワード部聖歌隊指揮者を務めている。

私たちは試練を自分で選択することはできません。
しかし、どのような態度で試練に臨むか選ぶことができます。



みずから行く場所へ 人を導く

ウェイン・B・リン



どの地で働いても成功する宣教師たちがいます。
彼らの秘訣は良い模範を示すことにあります。

ある宣教師が派遣されると、その地域の伝道活動が急に活発になることがあります。彼らは行く先々で、同じような状況をつくり出します。教会員の関心が高まり、みたまが注がれ、やがてバプテスマの数が増えていくのです。

この宣教師たちの何が、そのようなすばらしい現象を引き起こすのでしょうか。私はアリゾナ州ホルブルックで伝道部長を務めていたころ、次のような一通の手紙を受け取りました。この中にその答えが隠されているように思えるのです。

リン伝道部長
拝啓

私たちはこれまでずっとお手紙を差しあげたいと思っておりました。ブラウン姉妹とパス姉妹がこの地へ伝道に来てから、ジュランゴの会員たちがどんなに祝福を受けているかお知らせしたかったからです。彼女たちの献身と模範は、どのような説教も及ばないほど伝道活動に対する会員たちの態度を変えました。ふたりは大変忙しく教えているので、こちらが夕食に招く時間もないほどです。

私たちがこの地へ越して来てから5年になりますが、ジュランゴは伝道のむずかしい町でした。以前長老たちを我が家に招いたときも、この地域は伝道がやりにくいと言っていたほどです。ところがこの姉妹たちが来てからは、状況は一変しました。ふたりは会員のお陰だと言いますが、実は何よりこの優れたふたりの宣教師自身によるところが大きいのです。ふたりは、私たちと一緒に親しく過ごす時間を持つことによってではなく、熱心に働く姿を通して私たちに靈感を与え、私たちの生活を変えました。私たちは心からこのふたりの宣教師を愛するようになりました。

昨日は宣教師の準備の日でした。ふたりは、洗濯のために我が家の洗濯機と乾燥機を借りに来ました。主人と私は教会員でない友人を夕食に招待していましたが、その夕食のために、家にいる間中ケーキを焼いてくれました。昨晚はその友人に教会のことを話し、モルモン経をあげることができました。こんなに勇気がわいたのは初めてです。(彼女たちがケーキを焼いてくれたのは、私が車いすの生活を送っていてそれができなかったからです)ですから、彼女たちが与えてくれた靈感によって私が伝道活

動を行なうようになったのだとすれば、ふたりが行なっていることは奇跡です。

私はただ、彼女たちが規則を守り、正しいことを行なおうと一生懸命努力していることをお知らせしなかったのです。この姉妹宣教師たちは数カ月前にこちらに転任してきたのですが、それでも昨日ふたりが我が家に来たのは、2度目か3度目です。ですから私の家族がこのふたりの宣教師に特別な親しみを感じて、そのように言うのではありません。彼女たちは天父の子供たちを愛しているのです。日曜日に教会で彼女たちの歓迎を受ければ、その愛を感じることができます。このふたりの宣教師はキリストの純粋な愛をもって福音を教えているのがわかります。それが彼女たちの優れている点なのです。今朝も私は、伝道地にいる宣教師が、長老であろうと姉妹であろうと皆このふたりの宣教師のようであれば、教会は驚異的な発展を遂げるだろうと考えていました。

私自身この若いふたりの女性に会い、彼女たちの献身する姿を見て、自分が変わったと思っています。ワード部のだれに聞いても、同じような答えが返ってくるに違いありません。できればふたりのご両親に感謝の気持ちを伝えたいのですが、彼女たちはどうしても住所を教えてくれませんので、称賛の手紙を送ることもできません。本人たちの口からは自分が優れた者であることを示すようなものは何も聞かれませんが、彼女たちこそまさに優れた宣教師です。私たちがそのように認めていることを、ぜひ知っていただきたく思い、筆を執りました。 敬具
ロバータ・シャーリー、ジーン・シャーリー

私たちが模範を通して道を示すことにより、穏やかな説得力を高め、多くの人々が人生の試練を乗り越える力を得るのです。これを逆に言うと、昔の賢人が述べたように、こう言い替えることができるかもしれません。「自分が行くつもりもないところへ、人を導くことはできない。」確かにそうに違いありません。しかし、私たちが行こうとしているところへなら、導くことができるでしょう。そうすることによって、みずからの生活と周囲の人々に永遠の生命の祝福をもたらすことができるのです。

その完全な模範をもって私たちに道を示し、次のような簡潔な言葉を残してくださったのは、ほかならぬ主ご自身でした。「わたしに従ってきなさい。」
(ルカ18:22) □

「奇しきみわざ」

クリス・クロウ



私の本棚には古ぼけてすり切れた「奇しきみわざ」が1冊載っています。今では大判の上製本を利用しているの、もうそれを使うことはありません。ぼろぼろになったその黒い表紙のペーパーバックを取っておくのは、心情的な理由からです。私は13年前にある特別な人からそれを贈られ、生活が変わったのです。

リスは末日聖徒でした。そのことが私に煩わしく感じられたことはありません。むしろリスの幸福感にあふれ健全で快活なところに私はひかれていました。ときには、私も彼女の宗教をからかったことがあります。また、周囲の仲間から「上品ぶったモルモン」とデートをしていると、私がかかわれたこともありました。でも彼女との交際は、それを補って余りあるほど楽しいものでした。私はリスが好きでした。というより、すてきなモルモンの女の子に恋をしていたのです。

私たちが親しくなっていくにつれ、家族や友人、宗教といった、ふたりにとって大切な話題について語り合うようになりました。しかし、私はカトリック教徒、リスは末日聖徒です。デートは大抵の場合、神の属性、死後の生活、そのほかの宗教的な問題についての親しい語りいで終わるというものでした。私は宗教に関してどっちつかずのところがあり、特に熱心なカトリック教徒という訳でもありませんでした。だからと言って、モルモンになる心構えもありませんでした。

一緒に過ごす機会が増えるにつれ、リスは盛んに彼女の宗教について話すようになりました。ふたりだけのときは、大抵モルモンの教えについての話を彼女の方から持ち出してきました。リスは前世や天父、天の三種の階級について説明してくれました。私が教会に対する彼女の関心をそらそうとしても無駄でした。もし宗教論からうまく話題をそらせることができたとしても、今度は彼女が教えている初等協会のクラスや、自分が出席した日曜学校の教師のすばらしさについて話し始めるのです。

リスは絶えず私を教会活動に参加させようとしてきました。しかし、私は彼女を傷つけないようにしながら、それを拒んでいました。私はモルモンにかかわりのあるものには触れたくありませんでした。

一度リスに説得されて、一緒にファイヤサイドに出席したことがあります。話者はポール・H・ダン長老でした。私は話の内容は忘れてしまったのですが、一緒にいた彼女の反応だけはよく覚えています。リスは泣いていました。「ねえリス、どうかしたの。何か気に障ることもした。」私はそう尋ねました。

「いいえ、そうじゃないの。」彼女は涙をぬぐいながら、私にほほえんでくれました。「ダン長老のお話を聞いていたら、すばらしいみたまを感じたのよ。」私は彼女の答えに当惑しました。何も不都合があった訳ではないのに泣く理由

「デートはこれで終わりよ〜」彼女は泣きながら私に「冊の本を手渡しました。それが自分にとってどれほど特別な贈り物になるか、私には想像もつきませんでした。」



が、理解できなかったのです。

彼女が私を誘って訪問したモルモン教徒にまつわる場所がもう一カ所あります。アリゾナ神殿です。晩の外出は何をしたいかと尋ねると、彼女は決まって「神殿に行きましょう」と言いました。

私の方が根負けして、何回か神殿に足を運びました。大抵はふたりで神殿の敷地を散策し、目を見張る美しい景観に驚嘆するだけでした。ところが3回目に訪れたときに、彼女は訪問者センターの中を見ようと言い出しました。

私たちは中に入って映画を見ました。そこで出会ったのは親切な人ばかりでした。映画と紹介が終わると、今度はガイドと一緒にセンターの中を見学しました。見学の最後に、ガイドはその晩私たちが見たことについて、自分の証を述べました。リズは泣いていました。

そのとき以来、彼女は好んで神殿のことを話題にしました。「クリス、神殿ってすばらしいでしょう。いつか私も神殿で結婚するわ。私はそう心に誓っているの。」

「ぼくもあそこで結婚するのは一向に構わないよ。カトリックの大聖堂と違いはないんだから。」

「そうじゃないわ。神殿って、永遠に結ばれるところなのよ。」

「ぼくだってそう信じているよ。真実の愛は永遠に続くってね。」

リズの顔は真剣でした。「そうじゃないの。神殿には活発な会員だけが入れるのよ。あなたは入れないわ。」そう言って彼女は、結婚するときは神殿で式を挙げたい、と繰り返していました。彼女にとってそれ以外の場所はなかったのです。

「でも末日聖徒以外の男性を愛してしまったら、どうするんだい。」私は尋ねました。「それが本当の愛なら、結婚の場所など問題にならないんじゃないのかな。大切なのはふたりが寄り添って愛し合っていることだよ。」

リズは頭を横に振って答えました。「ふたりが本当に愛し合っているなら、永遠に続く関係以上に問題にすべきものはないわ。」彼女は言葉を切ると、私の目を見つめて言いました。「少なくとも、私はそうよ。」

月日が流れていきました。リズは相変わらず、神殿以外では結婚しないと語り続けています。私は、真実の愛があれば儀式は問題ではない、と主張していました。愛は結婚の形式に関係なく永遠であるというのが、私の意見でした。

議論を重ねれば重ねるほど、彼女は神殿の話題を持ち出し、その意義を語るのです。私は弱り果ててしまいました。ふたりが愛し合っているのは事実です。しかも、リズは神殿結婚の意志を変えようとはしません。私は、ふたりの愛が深まれば、彼女が折れ、場所は問題にせず結婚を受け

入れてくれるだろうと、楽観的な見方をしていました。しかし、それは間違っていました。

ある日の午後、リズが私の前にやって来ました。赤く泣きはらした目をして、声をつまらせ、こう言ったのです。「クリス、私たちはこれ以上付き合うべきじゃないわ。デートは終わりよ。永久に。」

彼女の言葉に私はぼう然としました。「どうしたんだい。両親のことなら問題じゃないよ。」

私を見つめる彼女の目からとめどなく涙があふれてきました。「両親じゃないの。私自身があなたとデートする訳にいかないのよ。あなたを愛するのはつらいわ。」

「リズ、君は混乱してるんだ。今までのようによく話し合おうよ。少しすれば、君も落ち着くさ。」

彼女は後ずさりしながら、むせぶ声で言いました。「だめよ、もう決めたの。あなたには会えないわ。」そう言うと、1冊の真新しい黒い表紙のペーパーバックを私の手に握らせて走り去ってしまいました。

リズがそれほど神殿結婚に固執する訳は何なのでしょう。なぜ妥協できないのでしょうか。なぜ彼女だけが特別なのでしょうか。ふたりが別れてから数週間後、私はあの子の小さな黒いペーパーバックを探し出しました。そこにはおそらく私の疑問に対する答えがあるだろうと思ったのです。

私はその「奇しきみわざ」を開け、ぱらぱらとページをめくっていきました。ジョセフ・スミスの話に目が留まり、丹念に読みました。ジョセフ・スミスの示現を読み進んでいくうちに、私にはそれが真実であることがわかりました。もし、ジョセフの話が真実であれば、彼が設立した教会も真実に違いないと思いました。

ほどなくして、私は宣教師から家庭集会を受けることになりました。そして急速に福音の原則に対する証を得ていきました。レッスンを全部終えると、私は自分が教会に入るべきであることを知りました。度重なる断食と祈り、深い瞑想の末、私はバプテスマを受けました。リズもその場にいました。彼女は泣いていました。

バプテスマを受けて1年と少し経過したころ、リズと私は再び神殿を訪れました。しかし今回は、今も永世にもわたる結婚をするためでした。これは13年前の話です。今では毎日、私の家族が進歩成長している姿を目にするにつれ、あのすてきなモルモンの女性が内に秘めた強い証に感謝の気持ちがわきあがってきます。そして、彼女が自らの永遠の幸福にかかわる問題に対し、妥協を許さなかった勇氣に心から感謝しています。結果的には、それが私の永遠の幸福にもつながったのでした。□

私は満たされない胸の内を
埋める必要があったのです。



「きょう、 選びなさい」

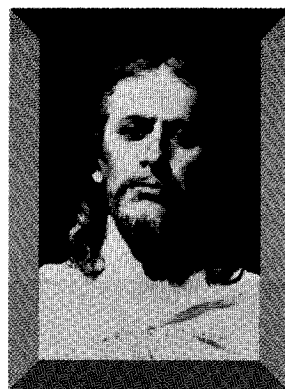
バーバラ・ジェイコブ

その日も私は学校へ通う道をひとりで歩いていました。頭の中では、刑務所に入っている父のことや、その日の収入にも事欠いて途方に暮れている母のことばかり考えていました。そしてこれまで何回も問い返したあの同じ

疑問が、また私の心にわき起こってきたのです。「なぜ私だけが……。」

その晩、私はセミナーに出席し、教師がその年のマスター聖句のひとつを朗読する声に耳を傾けていました。それはヨシュア記の一節でした。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシュア24:15)まるでだれかが、私自身に向かって語りかけているような気がしました。「バーバラ、今こそあなたが、だれに仕えるかを決めるときですよ。」

何ということでしょう。そんなふうはこの聖句を考えたことは一度もありませんでした。そのときまで私の人生はつらいことの連続でした。確かに、行きたいときには教会へ行けました。初等協会のレッスンも、日曜学校の授業も、若い女性のクラスも、申し分のないものでした。でも、何



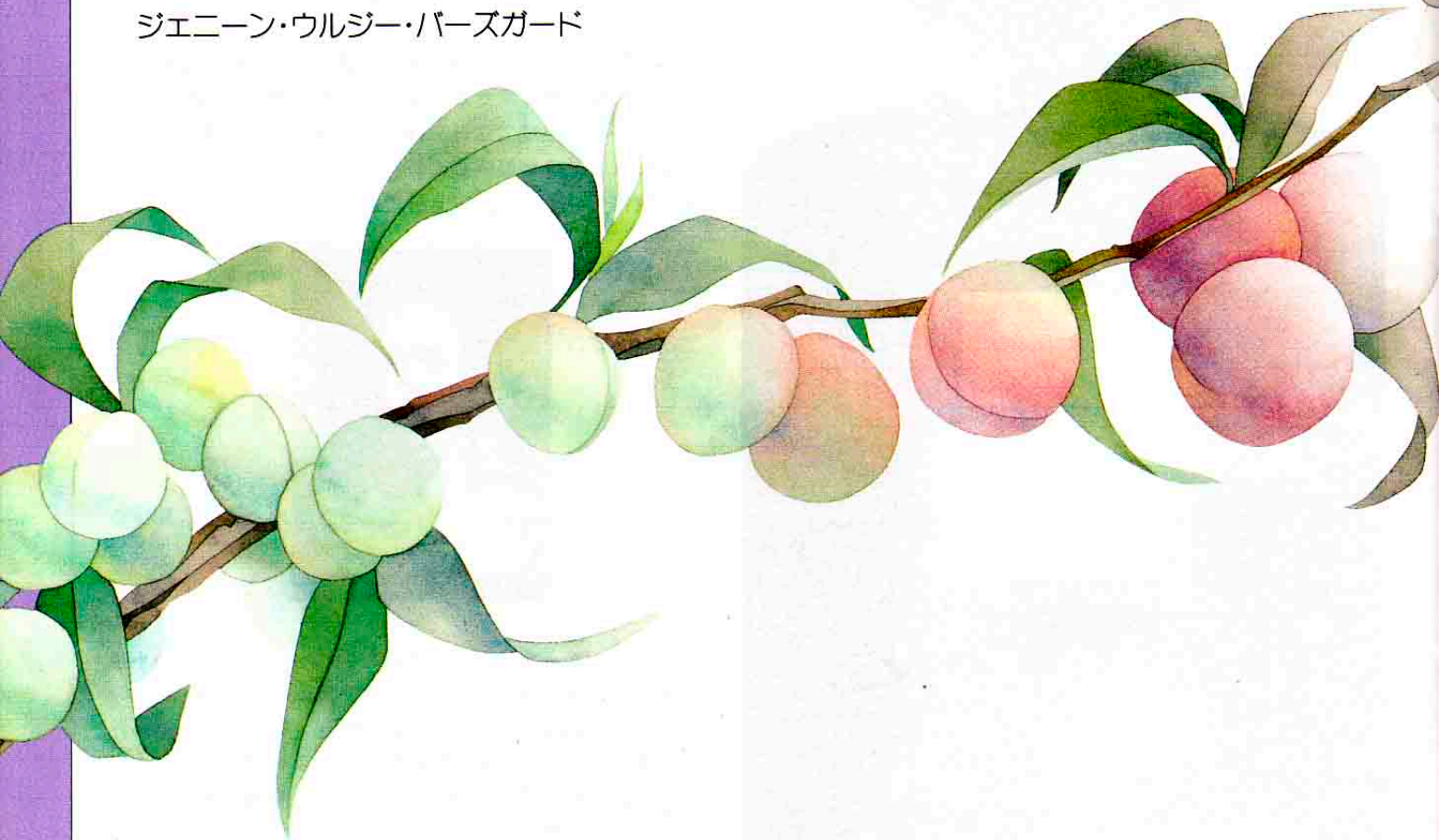
かが足りなかったのです。私は、いつもと変わらない小さなセミナーのクラスで、ついにそれが何であるかを知りました。私自身と主との個人的な関係、それが欠けていたのです。その日に、私が居眠りをしていたり、クラスを休んだり、あるいはよそ見でもして、特別な教師とみたまの声に耳を傾けていなかったら、どうなっていたらどうかと思いました。

心にかけていてくれる人がいるという実感はすばらしいものです。天父とイエスは、私が幸せな人生を送り、多くの実を刈り取ることができるように、自分が仕える者を決めるよう望んでおられたのです。胸に温かいものが次第に込みあげてきました。

その日以来、私は自分の思いと行ないを通して、主に仕えるよう努めてきました。いつでもそれが容易にできた訳ではありませんが、求めさえすれば、慈悲深い天父とイエス・キリストが助けを与えてくださることを、私ははっきりと知っているのです。□

主のみもとに とどまる力

ジェニーン・ウルジー・バースガード



ハイスchoolの卒業式が終われば、翌日からは楽しみにしていた夏の休暇が始まる。私はそう思い込んでいました。早朝から川辺へサイクリングに出たり、気の合った友達と思いっきりおしゃべりをしよう。午後にはのんびりとりんごの木の下で読書をしよう。そんな期待に胸をふくらませていたのです。ところが、翌日の朝から悪夢のような日々が始まりました。

朝起きて鏡をのぞくと、小さな水ぶくれが首にポツポツとできています。私はとっさに理解しました。ここ数カ月、

学校で水ぼうそうがはやっていたのです。自分にはうつりっこないとばかり思っていました。母はすぐさま私を寢室に閉じ込めて、弟や妹に伝染しないように取り計らいました。

1日目はそれほどつらくありませんでした。食事は母が部屋に運んでくれましたし、弟や妹が寢室のドアの下から励ましの手紙を入れてくれたりしました。

寝ていると窓からすももの木が見えます。6月初旬の気候の中で、枝もたわわに実ったまだ小粒の青いすもものは、



ゆっくりでしたが、日ごとに大きさを増していました。その実を見ていると、口の中に甘酸っぱい味が広がるような気がしました。

翌日は1日目のような訳にはいきませんでした。水ぶくれのある大きなはっしんが顔一面に、頭髪の中にまででき始めたのです。日がたつにつれてこの水ぶくれは体の方に移り、指先やつま先までびっしりと覆っていきました。母はやさしく、重曹を入れた風呂を用意したり、スプーンで薬を飲ませたりしてくれました。医師にも見てもらいましたが、一向によくなりそうにありません。「こんなに重症の水ぼうそうは見たことがない」とさえ言われました。

4、5日たつと痛みやかゆみ、それに顔に跡が残るのではないかという心配が頂点に達しました。のどの奥にも水ぼうそうができていたために、食べることも飲むことさえも思うようにいきません。私は我慢ができなくなって、母の前で声をあげて泣きました。「どうすればいいのかしら。」母も途方に暮れるだけでした。

私は苦痛が軽くなるようにと祈り始めました。

その晩は嵐になりました。風は夜通し激しく吹きまくり、私はベッドの中で一睡もできません。夜が明けると気分はもっと悪く、孤独でした。祈りは答えられなかった。私はそう思いました。すてばちになって寢室の窓辺の方へゆっくりと歩いていきましたが、足の裏にできた水ぶくれのせいで痛くて歩くのさえ容易ではありません。カーテンを開け、涙のにじんだ目で外を見やると、熟す前の小さなすももの大半が、あの嵐で落ちてしまっているのです。ほんのわずかなすももだけがところどころ木の枝にしがみつこうにくっついています。この一握りのすももだけが大きく

なり、熟して収穫の日を迎えることができるのです。

とっさに、私は悟りました。私たちにできることは、ときにはしっかりとしがみついているだけのこともある。しっかりとしがみついているかどうかの差が、嵐にも負けず残る実と落ちる実の違いをつくるのです。

私は、今までとは違う祈りの言葉を探しました。今度は、天父に苦痛を和らげ早く治してくださいと祈る代わりに、主から離れない強さを祈り求めました。すると自分や両親、医師が与えてくれる力を越えた、この世で得られる以上の力を受けることができたのです。もうひとりで悩む必要はありませんでした。この新しい方法で祈り始めてからは、痛みは変わりませんでした。以前よりも耐える力が増しました。

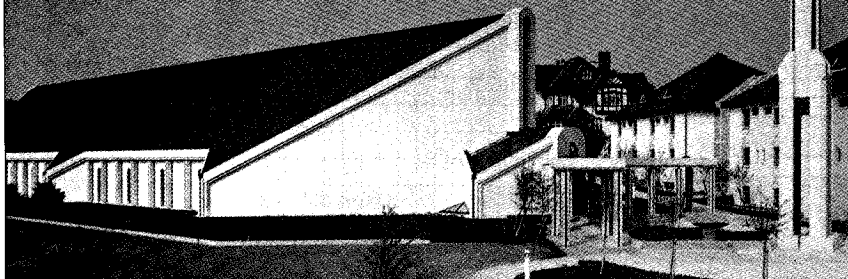
数週間後、病気もほとんど良くなって、私は庭のすももの木のところまで行ってみました。緑の葉が夕暮れどきのやさしい風を受けて薄明かりの中でさざめいています。数週間前のあの嵐で落ちた小さなすももの実は、黄色く、固くなって、しわだらけのまま草の中に埋もれてしまいそうです。その一方で、木にしっかりとくっついていた実は大きくなっていました。引きしまった、緑のつややかな皮は、夕暮れの日光を受けて成熟した輝きを放ち始めていました。

今でも私は、人生のつらい時期にあってあのときとは違った嵐のために耐えがたい気持ちに陥るときは、あの苦痛やすももの木の実、収穫どきのことを思い出します。すると私がひとりベッドの脇で祈った遠い昔のあの祈りの言葉がよみがえってくるのです。「愛する父よ、主のみもとにとどまる力をお与えください。」□



Kent 2004

フランクフルト神殿 (西ドイツ) 献堂される —世界で41番目の神殿



●八月に完成したフランクフルト神殿。ヨーロッパでは五番目の神殿

下記の名称を使うようにしてください。

日本名：東京神殿ネームズ・プロセッシング

英語名：Tokyo Temple Names Processing (略称：TNP)

所在地：〒106東京都港区南麻布5-10-30
☎03(440)3244

2. 「系図部」は「家族歴史部」と呼ばれることになりました。

これらの名称変更の目的は、先祖探求がより一層親しみやすいものとなり、この世を去った先祖のための神殿儀式がさらに活発に行なわれるようにするためです。

これに伴って「系図」に関係のある名称も同様に変更されます。「系図図書館」「神殿・系図相談員」はそれぞれ「家族歴史図書館」「神殿・家族歴史相談員」となります。ただし、「ユタ系図協会」の名称は変更されません。

熊本地方部長会 再組織される 新地方部長に 田代浩三兄弟召さる

去る7月12日、ジョン・坂巻伝道部長管理の下に開かれた熊本地方部大会には780人の出席があり、今までにない大きな大会となりました。今回の大会でこれまで約3年にわたって地方部長を務めた笠田政輝兄弟が解任となり、新たに福岡伝道部の第二副伝道部長である田代浩三兄弟(写真中央)が召されました。第一副地方部長に友松悦郎兄弟(写真右)、第二副地方部長に柴田渡兄弟(写真左)が召され、熊本地方部長会が再組織されました。



去る8月28日から30日まで、西ドイツのフランクフルト神殿で、11セッションにわたる献堂式が行なわれた。

この建物の完成によって、現在儀式が行なわれている神殿の数は41になった。ヨーロッパでは、5番目の神殿である。

献堂式に先立って、1987年7月29日から8月8日まで神殿の一般公開が行なわれ、70,000人以上の人々が神殿を訪れた。

このフランクフルト神殿は、オーストリア、ベルギー、フランス、ドイツ、オランダに住む約50,000人の会員の用に供されることになる。

献堂式では、地元の教会員が使用する言語の多様性を考慮し、最初の5セッションがドイツ語、次のセッションはフランス語、7番目のセッションはオランダ語、8番目から10番目のセッションは英語で行なわれ、最後のセッションはもう一度ドイツ語で行なわれた。

フランクフルト神殿の建設は、1981年4月にスペンサー・W・キンボール大管長によって発表され、フランクフルト郊外のフライドリヒスドルフに建設が進められてい

た。当時第二副管長を務めていた、ゴードン・B・シンクレイ長老(現第一副管長)管理の下、地元の関係者および教会幹部を招いて、1985年に鉄入れ式が行なわれた。

初代神殿長には、七十人第一定員会会員で、西ドイツ、ドルトムント出身のF・エンツィオ・ブッシュ長老が召されている。

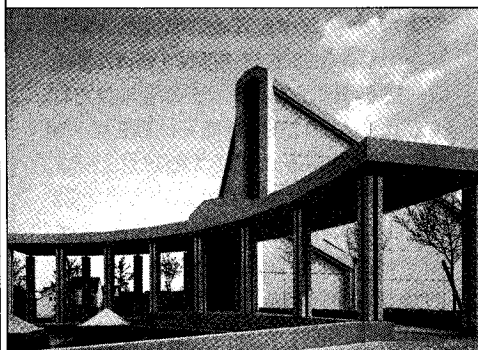
現在、ネバダ州ラスベガス、オレゴン州ポートランドにも、神殿が建設されている。さらに、カナダ、オンタリオ州のトロント、エクアドルのグアヤキル、コロンビアのボゴタ、カリフォルニア州のサンディエゴにも、新しい神殿建設の計画が発表されており、以上の神殿が完成すれば、儀式が行なわれる主の宮居の数は47に達する。

系図部の組織 および名称変更の お知らせ

このたび大管長会より以下の変更が発表されました。

1. 「系図サービスセンター」は、神殿管理部の管理下に入ります。これによって「家族の記録」の受付から儀式までが一貫して行なわれるようになりました。それに伴い名称が以下のように変わりましたが、業務内容、所在地などは従来どおりです。

今後「家族の記録」を送付される場合は、





「福音なかりせば、 この幸福 いずこにかあらん」

熊本地方部長
田代 浩三

●田代ご家族

をよく心に留めます。「キリストは人の性質を変えることができます。」「キリストは人を変え、改心した人はこの世を変えることができるのです。」「キリストのゆえに改心を経験した人は、キリストを指導者と仰ぎます。」「キリストを指導者と仰ぐ人々は、キリストにすべてを捧げ尽くします。」

(『神によって生まれる』「聖徒の道」1986年1月号、p.6参照)

キリストによって命を得ました。心から主に感謝しています。また、たくさんの良き指導者の方々、伝道部、地方部の兄弟姉妹の皆さんに感謝しています。そして、いつもよき理解者であり、永遠の伴侶である妻と、神様がお授けくださった5人の子供たちに感謝しています。

この度、地方部長という責任に召されましたが、過去の悲しむべき経験により、自分の弱さを痛いほど知っている今、「神の業、計画、目的が破れ、また水泡に帰するは共に有り得べからず。破るものは神の業にあらずして人間の業なるを決して忘るべからず」(教義と聖約3:1, 3)との言葉を肝に銘じ、主に頼りつつ歩いていきたいと思っています。(たしろ・こうぞう 1947年生まれ)

弱き者を常に愛してくださいます神様に感謝しています。

もう数年前のことになりますが、5人目の末の子供がまだこの世に生を受ける前でした。安息日の朝、妻は簡単な朝食の仕度をしていました。食器の音が小さく聞こえており、子供たちはまだ熟睡していました。静かな朝でした。私は隣室でひざまずいて祈りを捧げました。

「愛する妻がいて、愛する子供たちがいて……」と、感謝を表わしているとき、私の体をえもいわれぬ喜びが包みました。そして、心からわきあがる喜びと感謝の中、ひとつの言葉がはっきりと声となって出てくるのでした。「福音なかりせば、この幸福いずこにかあらん。」

それ以来、イエス・キリストの完全な福音によってさらに幸福を頂いてまいりました。日々に増し加わる幸福に感謝しています。ベンジャミン王は「この世に関係のあることでも霊に関係のあることでもすべてに祝福を受けて……」(モーサヤ2:41)と記していますが、まさしくそのとおりでした。仕事の面でも恵まれ、家庭においてもたくさんの恵みを頂いております。

バプテスマを受けて9月でちょうど15年になりますが、罪多い過去であっただけに、このような大きな祝福を思うとき、「今、自分のものは何もない。すべて主のもの」と、少しずつ感じられるようになりました。たくさんの弱点を持つ弱い者に対する、主の愛と忍耐、赦しに心から感謝しています。

我が家でも多くの教会員の家庭と同じように、いくつかの写真、絵などを飾っています。その中に救い主の絵があります。自分の机の前に置いてある絵の救い主の目は美しく澄みとおおり、どこまでも見通されるような深遠さがあります。少し微笑みを浮

かべた口元には、計り知れないやさしさと慈愛が満ち満ちています。がっしりした首と肩に十字架の重さを支えられる贖い主のみ姿を見、広く大きな手に、すべての人々を招かれる救い主の愛を見ます。

「救い主とまみえる」ということは、これまでとても考えられるものではありませんでした。もちろん、今もそうです。しかし、この2年間のうちに大きく変わったことがあります。それは救い主とまみえる日を望むという「望み」が生まれたことでした。このような望みを持てるように「感化」を及ぼしてくださる指導者を、九州の地にお遣わしくくださった主に感謝しています。

ジョン・坂巻伝道部長は、人々が変わることを教えてくださいました。人々が聖められることを、福音によってもっともっと幸福になれることを、また、神殿、神権の力、みたま、夫婦の関係、家庭の大切さ、主にまみえる望みを持つことなど、模範と愛、みたまの力によって教えてくださいました。どれだけたくさんの人々が「感化」を受けられたことでしょうか。伝道部の多くの人々が光を受けました。

伝道部長の下で主に仕える宣教師の皆さんからも多く学びました。彼らの謙遜さ、熱心な祈りと断食、深い愛から年齢の差を越えて、清め、信仰について多く学ばせていただきました。

また妻と共に学べることは大きな喜びでした。よく妻と語り合いました。妻と共に聖めについて深く考え、少しでも行なえるよう努力しました。主と同僚(伴侶)と自分自身の関係を大切にしました。決して十分な努力ではないとしても、山ほど弱点があったとしても、よりよいものを得ようと態度を変えるとき、主は豊かに祝福を注いでくださいました。

エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉



JMTC新伝道 部長にロイ・イサム・ 津谷兄弟召さる

これまで日本人宣教師訓練センター(JMTC)の伝道部長を務めた井上龍一長老は解任となり、8月1日付でロイ・イサム・津谷兄弟が新たに召され、第3代目のJMTC伝道部長に就任した。

津谷伝道部長ご夫妻は1979年から1982年まで、日本福岡伝道部で伝道部長として働いた経験があり、今回の召しは日本での2度目の責任である。



● 普門館で行なわれた東京・静岡地区大会。
右からゴードン・B・ヒンクレー副管長ご夫妻、ダリン・H・オクス長老ご夫妻、アドニー・Y・小松長老ご夫妻、地区代表の浅間玄也長老と岡本亮長老、サム・K・島袋神殿長、M・ジム・松森伝道部長(東京南伝道部)

5,361人が出席して開かれた9ステーキ部 合同の東京・静岡地区大会

東京・静岡地区大会準備委員長 浅間 玄也

私たちが3年振りに迎える東京・静岡地区大会の準備に入ったのは、1月中旬からでした。2月中旬に9ステーキ部よりひとりずつ実行委員の方に集まいただき、各ステーキ部の分担を決めました。分担は、PR、予算、会場準備、案内、音響、駐車場、聖歌隊、通訳、幹部応接、ベビシッピング、救護、そのほか多岐にわたり、小林整功兄弟と宮下阿佐兄弟が地区代表を助けて実行委員長として働いてくださいました。準備は欠落のないように、周到に、しかも献身的に進められました。

各ステーキ部を回つての聖歌隊の指導や深夜に及ぶ準備もあり、実行委員の方々の精力的な働きなしには果たし得ない大会でした。体は疲れていてもだれもが心は燃えていました。主に最も近い卓越した霊性と権能を持った方々からの祝福をいただけるのですから……。

大会に出席されるゴードン・B・ヒンクレー副管長、十二使徒定員会会員ダリン・H・オクス長老、また七十人第一定員会会員のアドニー・Y・小松長老は来日のために長旅のスケジュールをお持ちでしたし、大会に集う教会員の方々にとっても猛烈な暑さはこたえるので、涼しい天候を与えていただきたいとたくさんの方が祈っておられました。祈りはこたえられ、ヒンクレー副管長一行が到着されてからの3日間、さわやかな風が吹いて望んだとおりになりました。離日された次の日には、また厳しい残暑が戻ってきました。

9月5日(土)の午後吉祥寺の東京ステーキ部センターで4時間にわたって行なわれた神権指導者会には、540人の神権指導者が出席し、今主が日本の聖徒に期待さ

れている事柄が語られました。

ヒンクレー副管長は最後に「教義により、模範により、リーダーシップにより、愛により、全能の神より授かっている神権の力により人々を祝福してあげてください」と結ばれました。出席した神権指導者の一人一人が自分のあり方を見直して主が期待しておられる羊飼いになろうと決心しました。

9月6日(日)、一般大会は東京中野にある立正佼成会の普門館をお借りして行なわれました。9ステーキ部合同350人から成る聖歌隊は朝8時30分より最初にして最後のリハーサルを始めました。開会は11時、小松長老の司会で始められ、讃美歌124番『いざ救いの日を楽しまん』を全員で歌いました。また聖歌隊が『神はこの世を愛したもう』を心にしみ通るような霊性で歌いあげました。

その後、小松長老ご夫妻、オクス長老ご夫妻、ヒンクレー副管長ご夫妻が話されました。

小松長老は、17歳で改宗して以来64歳の現在まで、教会での奉仕の業に人生の大半を過ごしてきたことを感謝を込めて語られ、「互いに愛し合い、仕えるようにしてください。また神殿に参入して真理を知るようにしてください」と強調されました。

オクス長老は富と神の王国について次

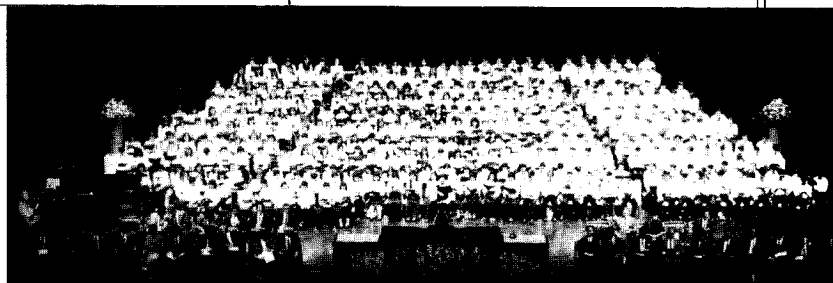
のように語りました。「この世のものを神としてはいけません。宝を求めぬ前にまず神の王国を求めてください。手に入る宝は善いことを行なうためのものです。(モルモン経ヤコブ2:18-19参照)また天に持って行くことのできるものは私たちの全生涯であり、とりわけ家族の絆が大切です。それは神殿で誓約を交わし、それを忠実に果たしていくことによって得られるものです。」

最後に壇に立たれたヒンクレー副管長は、日本におけるこれまでの教会の成長を振り返って、今やモルモン2世、3世の時代を迎えていると言われ、「日本の礎を築いてきたヒーバー・J・グラント大管長をはじめとする歴代の伝道部長はきっとこの場において教会の成長を目にしたかったことでしょう」と感慨深く語られました。さらに続けて「子供たちを福音の内に育て、教えるようにしてください。家庭で神様のこと、イエス・キリスト様のことについて話し、教えてください。たとえ子供が小さくても心の中に神様への愛を育てることが出来ます。また祈ることを教えてください。祈りは簡単であって、しかも効果的なものにしてください。宣教師や監督のために、教会の指導者のために祈ってください」と言われました。

この6人の方々の持つ愛と信仰は5,361人の出席者の心を揺さぶり、多くの人々がイエス・キリストの福音の光をさらに高く掲げて世の塩となろうと決心しました。

閉会后、『神よまた逢うまで』(讃美歌84番)を聖歌隊と全員で歌い、あふれるばかりにみたまを感じて、忘れることのできない印象と、希望の光を聖徒たちの心に刻み込んで大会を終えました。

● 9ステーキ部
合同350人から
なる聖歌隊



東京・静岡地区大会で 350人から成る聖歌隊、 高らかに主を賛美



●閉会后、退場する教会幹部を見送りながら『神よまた逢うまで』を歌う聖歌隊。指揮は野田和子姉妹

地区大会の音楽担当実行委員として横浜ステークキ部から私たち夫婦が3月に召されました。地区代表の浅間玄也長老から、大会に向けて讃美歌を選曲し、練習のスケジュールを練るように指示され、早速選曲に取りかかりました。

以前主人がヨーロッパ出張の際、ロンドンのワード部に出席し、聖歌隊員の方から聖歌隊歌集を頂いていましたので、それを地域讃美歌再翻訳委員に召されている柳田聰子姉妹に翻訳をお願いしました。

その中から『わが神わが王』『神はこの世を愛したもう』『主の祈り』さらに新讃美歌よりゴードン・B・ヒンクレー長老がみたまの導きを受けて作詞された『主は生きたもう』など前奏後奏を含め大会で歌われる8曲を祈りの気持ちをもって選びました。

その内の2曲『神はこの世を愛したもう』と『主の祈り』はともに難曲で、音楽的にはもちろん、それ以上に主に対する信仰が最も必要とされる曲でした。

4月26日、各ステークキ部音楽担当者が集まり、浅間長老より指導を受けました。大会で何よりも大切な責任は、お話をされる幹部の方が聖歌隊のコーラスによってより一層靈感されるように、またキリストがわれに来よと言われたその思いを歌で表わすようにとのことでした。

7月からほかの8ステークキ部の練習を見て回るため、6月中に横浜ステークキ部の聖歌隊のコーラスを完成しておかなければなりませんでしたが、そのために毎週のように集まりましたが、皆喜んで練習してくれました。

高崎ステークキ部では地域が広範囲に及んでいるために、7つのワード部が一カ所に集まるのは時間的にも金銭的にもむずかしいにもかかわらず、熱心に練習してくださいました。

その後、大会に先がけてリハーサルのために、各ステークキ部から聖歌隊員200人が

吉祥寺の東京ステークキ部センターに集まりました。合同で練習ができるのは大会当日の朝とこの日の2回だけです。ところが各パートはまだ音取りが十分にできておらず、音の違う所が何カ所もありました。しかし、たとえ音が少し違っていても、200人のハーモニーからは心の証をはっきりと聞くことができました。主が生きたもうことを歌を通して証できることを知りました。

8月2日の静岡ステークキ部への訪問では、断食日にもかかわらず、練習を2時に開始し、終わったのは6時半を過ぎていました。その間たった10分の休憩で、本当に一生懸命練習しました。続けて毎週木曜日にも練習するのでもう一度来てほしいと言われ、29日に再度訪問したときには、すばらしいハーモニーに仕上がっていました。主は熱心に努力する人々に確かに助けを与えてくださいます。

あるステークキ部で足が不自由な姉妹から皆と一緒に歌えるかどうか聞かれました。当初聖歌隊はひな段上に腰かける予定でした。ほかにも体の不自由な方がいらっしや

り、彼らも何の苦痛もなく皆と一緒に歌うことができるよう私は主に何度も祈りました。

最終的に聖歌隊員全員にさすが用意されることになり、主が祈りをお聞きくださったことを心から感謝いたしました。私自身足の関節が悪いので、長時間立つときや天候によりつらい思いをしますが、この責任の間1度もつらい思いをせず、主が祝福してくださったことを証します。

大会の朝8時半、350人から成る聖歌隊員が一堂に会しました。兄弟姉妹が心をひとつにし、確かに主が生きたもうとの証を心から歌い、主を賛美したとき、そこにはみたまがあり、平安と喜びがありました。その美しいハーモニーに、涙を止めることができませんでした。

聖歌隊員の皆様心から感謝いたします。この召しを通し、多くの方々への助けと励まし、神様の守りと愛がありましたことを心から感謝し証いたします。(レポーター：東京・静岡地区大会音楽担当実行委員・野田雄司、和子)

東京・静岡地区6ステークキ部合同の 第3回独身成人サマーカンファレンス、 長野県車山高原に420人が集う

「チェンジ」(変わる)をテーマに、6ステークキ部(東京南、東京、東京西、横浜、静岡、町田)合同の独身成人サマーカンファレンスが長野県車山高原で、8月12-15日の4日間開催された。合同カンファレンスも今年で3回目とあって、実行委員会、各ステークキ部のスタッフもよく訓練され、どのプログラムも十分に吟味された内容であった。参加人数も過去最高の420

余人を数え、宿泊したホテルも貸し切りとなるなど物心両面から祝福された大会となった。

8月12日、青い空と野山のグリーンのじゅうたんが見事に調和する会場に、昼過ぎから各ステークキ部がチャーターしたバスに乗ってぞくぞくと兄弟姉妹が到着した。どの顔にも笑顔がこぼれる。まずはグループ交歓会から幕開けとなった。すっかりおな



●東京・静岡地区の独身成人によるサマーカンファレンス最終日、キャンプファイヤー会場にて閉会式を行なう参加者

じみとなった各グループの旗上げや、おそろいの法被姿など、仲間意識はすぐに生まれる。

3時から開会式が始まり、地区代表の浅間玄也長老があいさつに立った。「これは神様のプログラムです」と語られるのを聞いて感慨にひたった兄弟姉妹は多に違いない。そして最後に教会を紹介したチラシをつけた2,500個の風船が空高く舞いあがった。この一つ一つの風船を見上げながら、4日間の大会に向けて、各人の思いをふくらませたことだろう。

夜は東京ステーク部が担当した「家庭の夕べ」が行なわれた。400人以上が一同に参加する家庭の夕べは、まずほかでは体験できないものであろう。浅間長老ふんする天父のもとに集った420人の神の息子、娘たちは、各グループに分かれて、現世を旅するのである。途中サタンの誘惑や試練に遭いながらも、やがてそれらを乗り越えて天父のもとに帰っていく。グループの一致を図るうえで、よく考えられた効果的なプログラムであった。

2日目は、自然と親しむためにいろいろなコースが用意された。バスハイク、登山、フィールドワーク、ハイキングなど。天父が私たちに与えてくださった大地の大いなる創造の業に改めて目を見開いたのではないだろうか。

夜は静岡ステーク部が担当するダンスパーティー。当初は野外での予定であったが、雨のためグラウンドの状態が悪く、ホールで行なうことになった。狭いホールの中で400人がおしくらまんじゅう、いやラッシュアワーダンスパーティーとでも言おうか。静岡・町田ステーク部の生バンドの熱演もあって一気に盛り上がり、最高潮に達した。

3日目午前中は、恒例のセミナーである。「主は私たちに何を期待しておられるのか」というテーマで、青柳弘一前仙台伝道部長、内山雅亘ステーク部長（東京ステーク部）、

森村久男ステーク部長（町田ステーク部）が話された。経験豊かな指導者のお話に、参加した一人一人が決意を新たにしたいことだろう。

午後からはフリータイムとなった。町田ステーク部が用意した喫茶店や教会制作のビデオを上映するビデオシアター、特に求道者のために用意されたモルモンバビロンなどで、各自思い思いに過ごした。またコンベンションホールでは、タレントショーが行なわれた。

最後の夜はキャンプファイヤーである。ところが、またしても夕方になって突然天気がくずれ、大雨となってしまった。たちまちのうちにファイヤーストームがぬれ、土手にセットされた火文字のたいまつからは赤々と燃えるはずの炎に代わって雨のしずくが……。早朝から準備していた兄弟姉妹が傘もささず（ぼうぜん）に茫然と天を見つめている。セットされた器材をずぶぬれになって守る兄弟姉妹たち……。皆の顔は雨と涙でぐしゃぐしゃになった。

中止の決定が下され、本部からこのキャンプファイヤー会場まで、ずぶぬれになった兄弟姉妹たちを迎えに、ぞくぞくと車が来る。この光景を見ていたある兄弟が言った。「現代の幌馬車隊だね」と。

しかし、コンベンションホールに移して行なわれたこの会は実に感動的な盛り上がりを見せた。星空の下に赤々と燃える炎を見ることはできなかったが、一人一人の心の中に燃えあがった信仰の炎を見ることができた。雨と涙でぐしゃぐしゃになった顔が光り輝いていたからである。改めて主の導きに感謝した。

最終日、いよいよフィナーレである。今年の証会では代表して10人が証をした。どの証も力強いものであった。またここまで献身的に準備してくださった実行委員一人一人に盛大な拍手が送られた。続いて浅間長老が独身成人の会員のために5つのチャ

レンジを与えてくださった。①ワード部/支部の霊性は独身成人で決まる。（準備されたプログラムを行なう）②結婚。③奉仕一人々に仕える。④清い心と清い手を持つ。（アルマ5：19）⑤地区大会に備える。

最後に場所をキャンプファイヤー場に移した。昨夜の雨で点火されなかった火文字「キミヨアツクモエロ！」とファイヤーストームには、真昼の太陽の光を浴びながら炎が燃えあがった。全員で書いた証のカードが開会式と同じく800個の風船につけられて空高く舞いあがり、4日間のプログラムを閉じたのである。

「チェンジ」というテーマは、私たちにあって、これからが本当の始まりである。最後にこの大会のために多大な犠牲を払って働いてくださった実行委員会ならびに各指導者の方々に感謝したい。（レポーター：町田ステーク部町田第2ワード部・太田克利）

大阪・名古屋地区 5ステーク部合同 第1回独身成人 サマーカンファレンス 開催される

去る8月13-15日、石川県金沢市の医王山スポーツセンターで、神戸、大阪北、大阪、大阪堺、名古屋の5ステーク部合同独身成人サマーカンファレンスが開かれました。「伝道」をテーマとして掲げた今回のカンファレンスには370人の兄弟姉妹が参加し、楽しく、霊的な時間を共にすることができました。また、雄大な自然の中で3日間を過ごすことにより、さらに神様のみ業のすばらしさ、偉大さを強く感じることができました。

プログラムの一部を紹介すると、1日目の夜には親睦会「笑ってボン」とダンスパーティーが並行して行なわれました。この親睦会では、大阪中心のカンファレンスらしく漫才コンテストが行なわれました。普通に話しているのを聞くだけでもユーモラスな兄弟姉妹の中から各ステーク部を代表する5組の競演に、笑いのうずが巻きおこ



●石川県金沢市の医王山で開催された大阪・名古屋地区の独身成人サマーカンファレンスには三七〇人が集った。

なったとき、車の渋滞のため、予定の飛行機に乗れず、次の便に乗ったので4、50分遅れるとの連絡が入り、無事に到着されますようにと何度も神様に祈りました。あらかじめ用意しておいた「モルモンとは」のビデオを上映しながら、今か今かと待ちました。

到着された瞬間夢ではないだろうかと思いました。遅れた分を取り戻すためにすぐに会場に入ってくださいましたが、そのとき会場がワーという歓声とともにどよめきました。テレビで見るのと同じ笑顔でユーモアたっぷりに、遅れた事情から始まって、ユタでの生活、モルモン経の証、伝道中の経験、芸能界でのことなど出席者をあきさせることなく、1時間近くお話ししてくださいました。

クーラーや扇風機がフル回転しても、会場は熱気でムンムンしていました。会場につめかけた人々が、ギルバート兄弟の人柄や楽しいお話にすっかり魅了されている姿を見て、それまでの心配や苦勞が一転して喜びに変わり、ギルバート兄弟にありがとうと遠くから何度も頭を下げました。

今回の集いのために会場を準備するにあたり、現在の教会の建物が倉庫を改造した集会所であるため、200人近くを収容するためにはいろいろな問題がありました。不足分のいすを借りにほかのワード部まで走り回ったのははじめ、たれ幕、看板作り、ビデオの配線、お花や食事の手配などに教会員の方々が遅くまで準備してくださいました。

前日までの不安定な天候も当日はうって変わってよい天気恵まれ、整理券を携えた求道者、宣教師、会員が180人近く集いました。

ケント・ギルバート兄弟の芸能界でのすばらしい模範と伝道のお陰で、大阪堺ステークス部の小支部である河内長野支部にあっても良い伝道ができました。教会になかなか足を運んでくれなかった求道者の方々や、

●河内長野支部の建物で講演するケント・ギルバート兄弟

3日目は、永遠の結婚、伝道など5つのグループに分級し、指導者の方々がそれぞれに準備してくださいましたセミナーに臨みました。わざわざこのために東京から15時間もかけて来てくださった指導者もいます。そのセミナーの後に証会が持たれ、信仰と証を分かち合いました。

このカンファレンスの準備にあたって、中村晴兆大会委員長の指導の下に多くの実行委員と指導者の方々が一生懸命努力してくださいましたお陰で、有意義な3日間を過ごすことができました。

大阪地区と名古屋地区合同によるこのように大きなカンファレンスを開催するというのは初めての経験です。ステークスを越えて交流を図り、伝道や結婚などについて相互に啓発し合える場となりました。また、信仰を強め合う機会となりましたことを心から感謝いたします。(レポーター：名古屋ステークス部名東ワード部・清水友賢)

っていました。

夜のダンスパーティーでは、地元北陸地方部の会員約40人も参加してくださいましたお陰で、盛大なパーティーになりました。社交ダンスからポップダンスまでいろいろなダンスを生演奏で楽しみました。

2日目の夜は、「みんなでナイト」。まだ明るい青空の下、運動場に370人が腰を下ろします。大声で歌ったり、はしゃぎ声をあげながらゲームをしているうちに辺りは暗くなってきました。

特設スクリーンにスライドが映し出されて、歌でつづるイエス・キリストの生涯の物語が始まりました。ただ楽しいだけの集会ではなく、みたまに満たされた時間で。多くの人々が主の贖いを再確認し、主への献身を決意しました。閉会の祈りが終わると壮大な「サマカン87」の火文字が炎と煙を噴きあげて闇の中に浮かび上がり、私たちの感動は最高潮に達しました。

「ケント・ギルバートさんのモルモン経についての証を聞く会」に180人が出席

—大阪堺ステークス部河内長野支部—

河内長野支部は、これまで3度引っ越しをしましたが、この度やっと教会堂建築のための土地購入が許可されました。長い間待ちこがれたことでしたのでその喜びもひとしおでした。

その契約のために、教会の法律顧問であるケント・ギルバート兄弟が地元の不動産業者を訪ねて来られたのは7月でした。そして法的手続きのため、もう一度河内長野の法務局に来られると知ったとき、5分でも10分でもいいからお話をさせていただきたくないと、無理を承知で小松ステークス部長を通してお願いしました。

するとお忙しいにもかかわらず、1時間

ほどモルモン経についての証を中心にお話をしてくださいとの返事に、顔を見るだけでもと思っていただけに、思わずバンザイをしました。

いよいよ当日の8月26日(水)がやって来りました。開会の予定時刻の午前11時半に



会員のお友達をたくさんお招きすることができました。また、ギルバート兄弟からモロナイ書第10章3-4節を引用したモルモン経の力強い証をお聞きして、初めての方もモルモン経に興味を持ってくださったようでした。

彼はその足で札幌に向かわれました。お忙しいスケジュールの中で貴重な時間を割いてくださり、心より感謝しています。(レポーター：河内長野支部支部長・志野年昭)



ケント・デリカット兄弟を招いて開かれた講演会

—北陸地方部金沢支部—

9月13日(日)午後1時30分から1時間半にわたり、金沢支部の教会堂で「私と家族」と題したケント・デリカット兄弟の講演会が、一般の方々も含め200余名の出席者を得て開催されました。

今回の企画が生まれたのはまったくの偶然からでした。当初、教会のオープン・ハウスとして提案された議題がふくらみ、「無理を承知で、ケント・デリカット兄弟に講演会の依頼をしてみよう」ということになりました。早速デリカット兄弟と連絡を取り、講演のお願いをしたところ、快く承諾の返事を頂くことができたのです。

返事を受けた翌日、早速支部のおもだった神権者を集め、日程、プログラム、テーマ、費用などについて大筋の意思統一を図りました。同様の会合を何回か持ち、概要が決められた後、プログラムは、独身成人の若い力を中心とした実行委員会へと下ろされ、そこで実行へ向け具体的な対策が打たれていきました。

ここ4カ月間、金沢支部では、週にひとりの割合で改宗者が誕生し、皆が支部の勢いというものを感じていました。その改宗者の多くの方が今回のプロジェクトで重要な働きをしてくださりました。彼らが支部に持ち込んでくれた勢いと働きなくしては、今回のプロジェクトは、成功どころか、実行さえむずかかったのではないかと思います。



●後列右端は新しくJ.M.T.C.の伝道部長に召されたロイ・イサム・津谷長老ご夫妻

8月に召されたJ.M.T.C.第99期生18人の名簿

S:ステーキ部 D:地方部
W:ワード部 B:支部

〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 黒木豊城	東京東S/牛久W	仙台伝道部
2. 黒木俊宏	横浜S/川崎W	札幌伝道部
3. 大生 泉	岡山S/岡山W	福岡伝道部
4. 久永美也子	ハワイホノルルS/ ハワイ・カイ第2W	福岡伝道部
5. 岡部晶子	横浜S/小杉B	仙台伝道部
6. 小池さゆり	神戸S/明石W	札幌伝道部
7. 五十嵐高子	三重D/四日市B	東京北伝道部
8. 大喜田正恵	大阪北S/豊中東W	東京北伝道部
9. 増田治代	東京西S/多摩B	岡山伝道部
10. 木田小絵	東京S/所沢W	岡山伝道部
11. 土田愛砂	BYUハワイ第1S/ BYUハワイ第3W	東京南伝道部
12. 尾崎嘉子	大阪S/東大阪W	名古屋伝道部
13. 松下陽子	東京S/吉祥寺W	札幌伝道部
14. 森 和香	福岡S/二日市B	札幌伝道部
15. 小林久美子	町田S/藤沢W	福岡伝道部
16. 矢野由美子	熊本D/熊本B	岡山伝道部
17. 松本由紀	横浜S/横浜中央W	名古屋伝道部
18. 三宅ひとみ	高松S/新居浜B	名古屋伝道部

さて、当日の9月13日、講演会に先立つ2時間前、教会員と求道者は、聖餐会でデリカット兄弟の話聞く機会を得ました。礼拝堂は普段より多くの会員と求道者でいっぱいでした。皆が一心に耳を傾けていました。デリカット兄弟は、教会の一兄弟として真摯に、「人がその友のために命を捨てること」について、白血病ですでにこの世を去った弟さんの例を引き合いに出してお話しされました。多くの人々が、涙を抑えることができませんでした。

聖餐会後に持たれた講演会では、初めて教会にみえられた多くの方々に前におも

に言葉と食べ物についての苦勞話を中心に講演していただきました。デリカット兄弟のユーモアたっぷりな話し振りに思わず笑いながらも、食習慣や方言についてなるほどと考えさせられました。

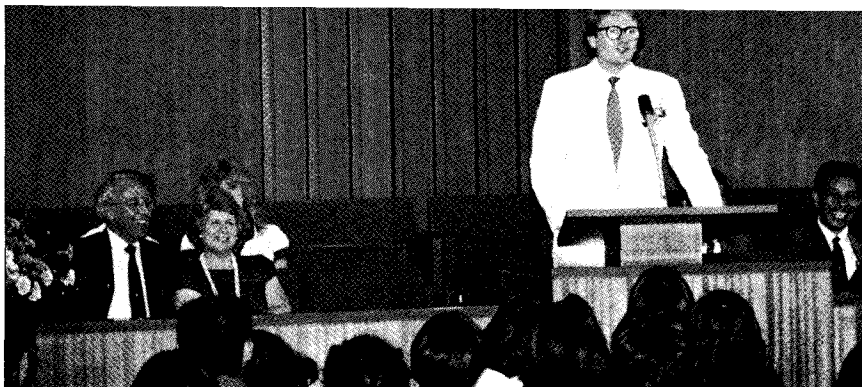
その後、金沢の全宣教師が壇上に呼ばれ、デリカット兄弟と一人一人と楽しいやり取りを繰り返しました。

最後に「知恵の言葉」と純潔の律法を引き合いに出して、教会について紹介されました。デリカット兄弟にとって「最も大切なものは家族」であり、「家族が堅固になれば、社会の多くの問題は解決されるだろう」と話されました。

講演会后、出席者を小グループに分け、記念写真の撮影会を行ないました。何度でも要望にこたえてポーズを取り、笑顔を絶やさず、一人一人に話しかけられる、そのきさくな人柄がとても印象的でした。引き続きサイン会が持たれ、初めて教会に来られた方々に講演会に先立ってプレゼントしたモルモン経にサインをしていただきました。ここでも一人一人に話しかけられて、それらの方々ととても良い関係を築くことができました。

デリカット兄弟みずから、「私は非常に幸運です」と言われますが、それは彼が有名になれたからではなく、有名になることにより人々に奉仕する機会がより一層増えた

●金沢支部教会堂で講演するケント・デリカット兄弟。左側はデビッド・R・ブロードヘッド伝道部長ご夫妻



からではないかと、この日の言動を見て感じました。

今回の講演会によって多くの波及効果が生まれることと思います。支部の会員は一致し、またこの日教会に初めて来られた方々の中から必ず改宗者が生まれるでしょ

う。この日をきっかけに、教会に再び活発に集おうと決意された方もいることと思います。今後の発展が非常に楽しみです。講演に向けて尽力いただいた方々に感謝の念でいっぱいです。(レポーター：金沢支部広報委員長・峯岸昭幸)

たますだれ

東京西ステーキ部
八王子ワード部
堤 明子



日差しの色が 白から浅黄色に変わり、
自然も人も もろもろのしがらみから解き放たれ、
ほんの束の間につかんだ自由の賛歌とにぎわいを
もう忘れたかのように
夏は行ってしまった。

朝の庭に 静けさが戻って来て、
冥想へと誘う。
敷き石に沿って咲く白い花が
ふと「吾」にささやき返す。
「私は、ここにいます」と……。

——たますだれ

化粧をしない、徳高き乙女が
空を仰いで語りかける姿に似ている。
細い濃緑の茎は
力いっぱい背伸びして天に向かい、
群れなす小さな花の花びらは
まばゆいばかりに白い。
その花の一本一本が
天からの恵みの
ほんのひと滴さえももらすまいと、
体のすべてを受け皿にして、
今 咲くことにたまゆらの生命を賭けている。
今年も 夏の終わりの気だるさを吹き消して、
真つ先に秋を伝えてくれた花。

——たますだれ

私は この花の花言葉を知らない。
けれども、確かに聞こえてくる。
「神様、私はここにいます」と……。

(つづみ・あきこ 1935年生まれ、八王子ワード部初等協会教師)

新役員の新任(任命)

8月21日から9月18日までに管理本部会員記録統計課に通知のあった役員の新任(敬称略)

- 札幌ステーキ部旭川ワード部
新監督：菅原誠一(前任者：安田琢三)
- 高崎ステーキ部前橋ワード部
新監督：中西文夫(前任者：松沢利行)
- 町田ステーキ部町田第2ワード部
新監督：松沢武雄(前任者：八木沼修一)
- 熊本地方部長嶺支部
新支部長：角屋光典(前任者：友松悦郎)

編集室から

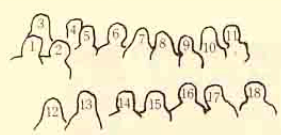
《原稿を募集しています》

▶各地のたよりの原稿を常時募集しています。改宗談や日々の信仰生活で得た証(仕事にかかわる証など)、本誌を読まれたの感想文(「読者のひろば」)やカットなどをお送りください。また、北は北海道から南は沖縄までの幅広い話題を取りあげたく思いますので、広報ディレクターあるいは各

種催し物を担当する高等評議員/地方部評議員の方はレポーターを手配して下さるようお願いします。

▶来年1月号掲載分の締切は11月10日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)と教会での責任(役職名)、生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しすることがあります。

▶あて先：〒106東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264



●後列右端は新しくJMTCの
伝道部長に召されたロイ・イサ
ム・津谷長老ご夫妻

8月に 召された JMTC 第99期生 18人の名簿

S:ステーキ部 D:地方部
W:ワード部 B:支部

〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 黒木豊城	東京東S/牛久W	仙台伝道部
2. 黒木俊宏	横浜S/川崎W	札幌伝道部
3. 大生 泉	岡山S/岡山W	福岡伝道部
4. 久永美也子	ハワイホノルルス/ ハワイ・カイ第2W	福岡伝道部
5. 岡部晶子	横浜S/小杉B	仙台伝道部
6. 小池さゆり	神戸S/明石W	札幌伝道部
7. 五十嵐高子	三重D/四日市B	東京北伝道部
8. 大喜田正恵	大阪北S/豊中東W	東京北伝道部
9. 増田治代	東京西S/多摩B	岡山伝道部
10. 木田小絵	東京S/所沢W	岡山伝道部
11. 土田愛砂	BYUハワイ第1S/ BYUハワイ第3W	東京南伝道部
12. 尾崎嘉子	大阪S/東大阪W	名古屋伝道部
13. 松下陽子	東京S/吉祥寺W	札幌伝道部
14. 森 和香	福岡S/二日市B	札幌伝道部
15. 小林久美子	町田S/藤沢W	福岡伝道部
16. 矢野由美子	熊本D/熊本B	岡山伝道部
17. 松本由紀	横浜S/横浜中央W	名古屋伝道部
18. 三宅ひとみ	高松S/新居浜B	名古屋伝道部